

令和6年度
半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略
有識者会議 評価報告書

(案)

令和6年10月
半田市まち・ひと・しごと創生有識者会議

目次

1. 半田市まち・ひと・しごと創生有識者会議・・・・・・・・・・・・・・・・	1 ページ
2. 評価制度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3 ページ
3. 評価の総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7 ページ
4. 総合評価（庁内評価含む）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13 ページ
5. デジタル田園都市国家構想交付金対象事業の効果検証・・・・・・・・	71 ページ

1. 半田市まち・ひと・しごと創生有識者会議

(1) 半田市まち・ひと・しごと創生有識者会議について

半田市まち・ひと・しごと創生有識者会議（以下「有識者会議」という。）は、「半田市人口ビジョン」及び「第2期半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「総合戦略」という。）の策定及び推進のために設置されたものである。

総合戦略の推進にあたっては、人口減少への対応や地域経済の活性化に向けた今後5か年の基本目標を達成するため、PDCAサイクルを確立し、総合戦略に定める具体的施策を効果検証し、継続的な改善を図ることが重要である。

そこで、有識者会議では、基本目標の数値目標及び具体的な施策に係るKPIの達成度や具体的施策に係る各事業の効果を中心に検証するとともに、必要に応じて総合戦略の見直しや次期の総合戦略に対する提言等を行うことで、半田市の地方創生の推進を強力に支えていくことを目指す。

(2) 有識者会議の構成委員

No.	分野	団体名等	氏名
1	産業	株式会社 Mizkan CRM本部 広報部長	亀山 勝幸
2	産業	名鉄観光サービス株式会社 営業戦略推進本部地域活性化推進部 部長	福井 佳代
3	行政機関	愛知県観光コンベンション局 観光振興課長	河治 豊弘
4	教育機関	日本福祉大学 准教授	◎鈴木 健司
5	教育機関	日本福祉大学 教授	遠藤 由美
6	教育機関	県立半田商業高等学校 校長	林 正也
7	金融機関	知多信用金庫 常務理事	沢田 勉
8	労働団体	JFEスチール知多労働組合 執行委員長	福田 昌寛
9	マス メディア	元NHK記者、元半田記者クラブ所属	山本 幸太郎

◎委員長

2. 評価制度

(1) 評価制度

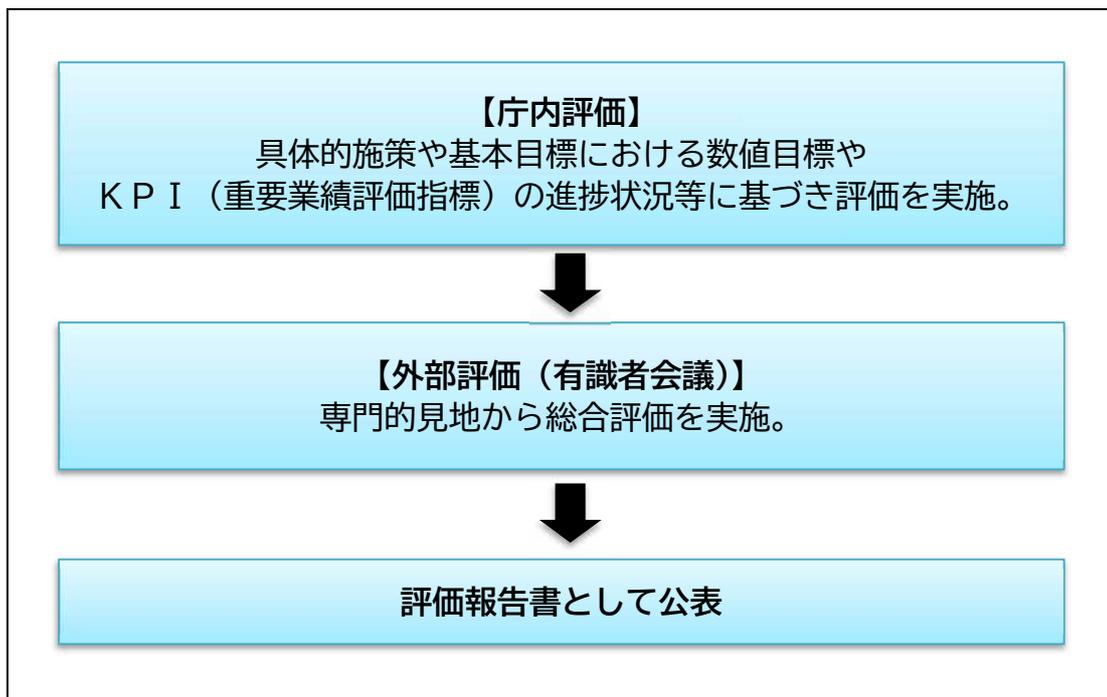
総合戦略は、2020年度から2024年度までの5か年計画である。総合戦略の推進にあたっては、PDCAサイクルの確立に向けた評価制度を導入し、庁内評価のみならず、有識者会議による効果検証を実施する。

①目的

- 半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進行管理の確保
- 外部有識者の参画による客観性のある質の高い効果検証の実現
- 行政の透明性の向上

②評価方法

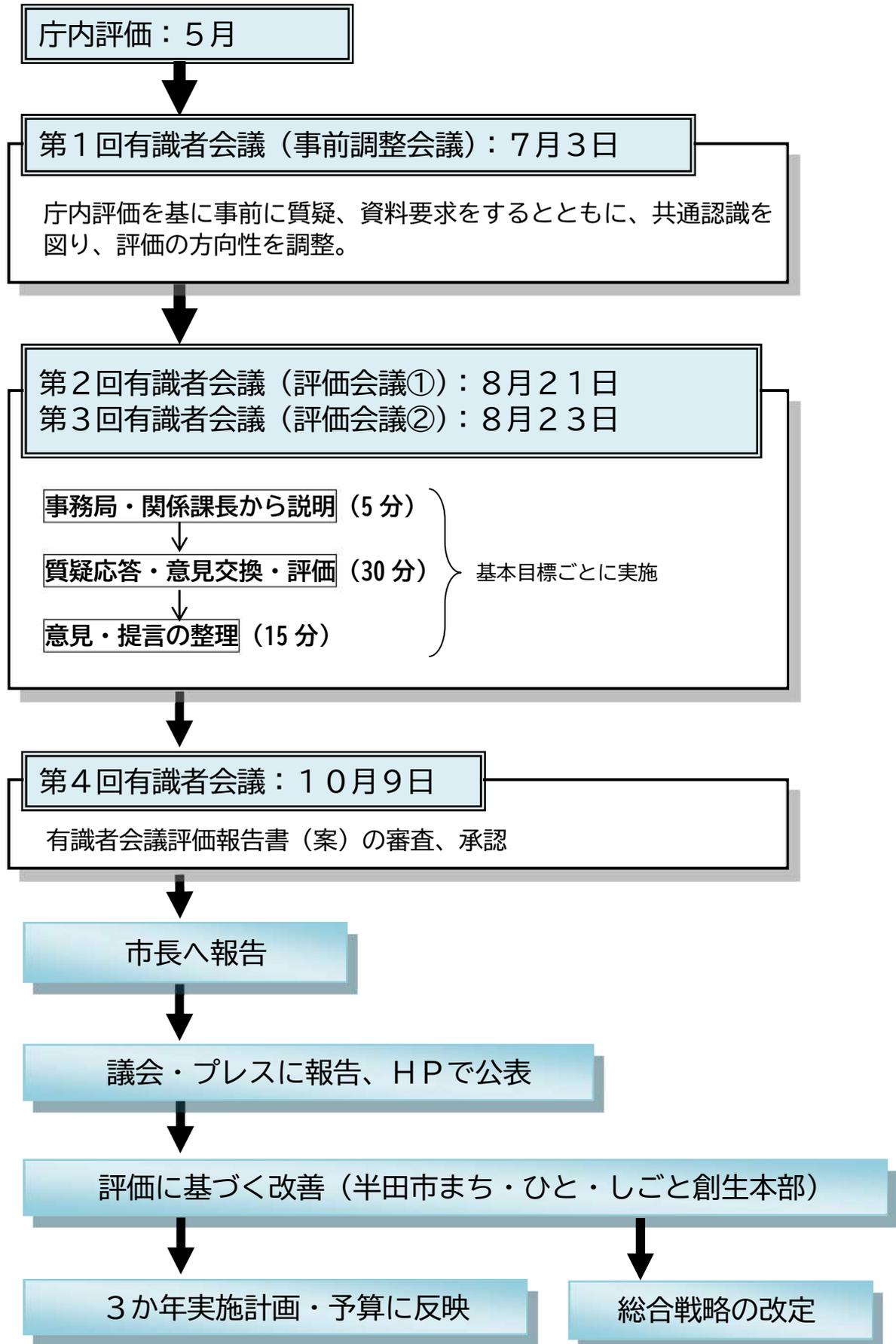
総合戦略には4つの基本目標が定められており、基本目標ごとに、毎年評価を実施する。有識者会議による評価は、庁内評価の後、総合戦略評価表等の資料を基に担当課へのヒアリングを実施したうえで評価を行う。なお、評価結果は、最終的に評価報告書として取りまとめる。



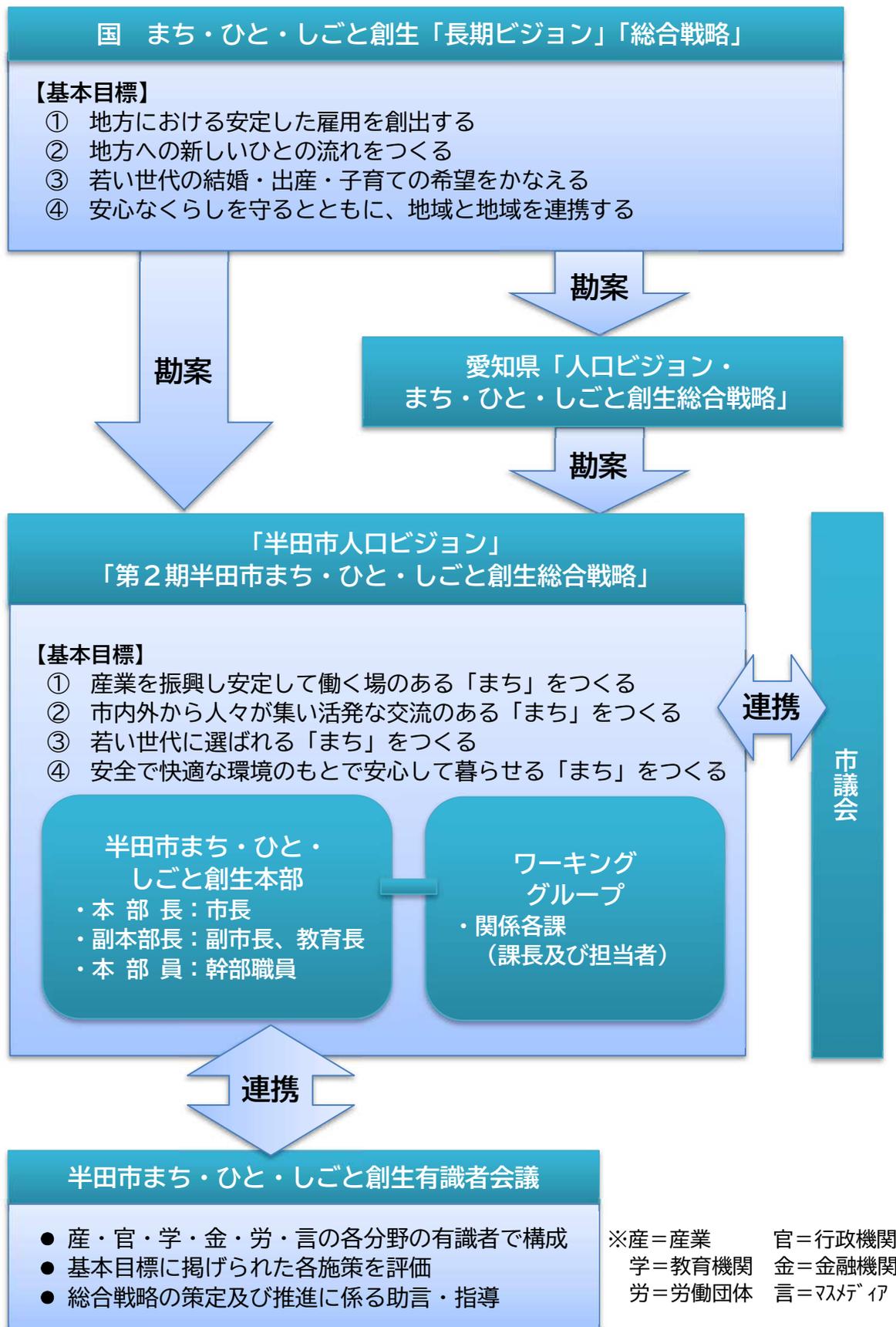
③評価報告書の反映

半田市は、評価報告書の反映状況を有識者会議に報告する。なお、報告対象とする内容は、原則として前年度分の提言等とする。

【評価フロー図】



(2) 推進体制



3. 評価の総括

(1) 評価の総括

○令和6年度の有識者会議

令和6年度の有識者会議は4回開催され、総合戦略の進捗状況とデジタル田園都市国家構想交付金の対象事業の有効性についての評価を行った。評価にあたっては、基本目標における数値目標及び重要業績評価指標（KPI）の達成状況や各事業の成果、担当課長等へのヒアリング内容をふまえた総合的な評価とした。

○評価

総合戦略における各指標の進捗をみると、「達成(AA)」または「順調に推移(A)」となった指標は、「基本目標における数値目標」では全8項目中2項目、「重要業績評価指標(KPI)」では全32項目中7項目に留まり、指標に対する達成度という点では改善を要する施策もみられた。

有識者会議では、前述の各指標の進捗のほか、施策自体の内容や進捗等も含めて総合的に勘案し、4つの基本目標に対する評価を行った。その結果として、「AA(良好)・A(概ね良好)・B(改善・見直しの必要あり)・C(改善を行い一層の努力が必要)」の4段階のうち、A評価の基本目標が2件、B評価の基本目標が2件となり、全体的には一定の進捗がみられた。また、デジタル田園都市国家構想交付金の対象事業の評価も実施し、令和5年度に国から認定を受けた3事業については、いずれも「総合戦略のKPI達成に有効であった」と認められた。

総合戦略の推進にあたっては、これまでと同様に数値目標の達成度のみにとわられることなく、施策に対するそれぞれの意見や提言も重視していただきたい。一般的に新たな取組を含めた様々な施策が進められている。その一方で、伸び悩んでいる指標の要因分析や現状把握が不十分なものも見られたため、より効果的な事業立案や評価に向けて、引き続き改善を進める必要がある。なお、設定した指標や目標値が施策の方向性や現状に即していないものも見受けられる。次期総合戦略の策定にあたっては、施策の目的や達成可能性を十分に考慮して指標を設定していただきたい。

○結び

半田市の人口は、116,778人（令和6年4月1日時点）で、令和元年度以降減少が続いている。転入の増加や転出の抑制を含む地方創生の推進にあたっては、持続性のある取組を地道に続けていくことが重要である。

今回の事業評価の対象年度である令和5年度は、現行の総合戦略の計画期間の5か年のうちの4年目である。総合戦略の後半期として、令和7年度からの次期総合戦略への展開を見据えながら、さらなる事業改善により、引き続き人口減少への対応や地域経済の活性化を推進していただきたい。

(2) 評価結果の概要

①総合戦略の評価

基本目標		令和6年度 有識者評価	過去の 評価
評価内容			
1	産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる	A	 R3年度:A R4年度:A R5年度:A
	<p>農業振興や中心市街地活性化、企業支援等の幅広い分野において、新たな取組にチャレンジできている。中心市街地活性化の取組が民間での自主的に取組につながる事例も見られた。</p> <p>はんだオープンファクトリー等の良い取組や魅力的な地域資源を活かせるようPRを強化し、認知度の向上やブランド化につなげていくことが重要である。</p>		
2	市内外から人々が集い活発な交流のある「まち」をつくる	B	 R3年度:B R4年度:B R5年度:B
	<p>アフターコロナの状況として、観光入込客数が復調しつつあることは評価できるが、コロナ前の基準値までは回復できていないことに留意すべきである。特に半田赤レンガの来館者数が前年度と比較して減少している。減少要因の分析を進め、今後の改善につなげていく必要がある。</p>		
3	若い世代に選ばれる「まち」をつくる	B	 R3年度:A R4年度:B R5年度:B
	<p>不妊治療費の助成や子育て支援センターでの一時預かり等、子育て世帯に配慮したきめ細かな施策を数多く実施できている。これらの取組を半田市の魅力のひとつととらえ、転入につながるような市外向けのプロモーション活動を強化していくことが重要である。</p>		
4	安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる	A	 R3年度:A R4年度:A R5年度:A
	<p>全般的に指標の達成度は低いが、防災対策や畜産臭気対策、文化・芸術振興等の幅広い分野において、安全・安心・快適なまちづくりにつながる取組を着実に実施できている。ただし、各家庭に対する災害への備えの啓発活動等、個別の取組については改善すべき点や伸ばしていく点もあり、さらなる施策の展開を期待する。</p>		

【有識者会議評価等の評価基準表】

評価	マーク	説明
AA		良好です 施策実施状況・方向性については「良好」。目標値の達成状況などから成果も「良好」。引き続きこの方向性で推進を。
A		概ね良好です 施策実施状況・方向性については「概ね良好」。改善を加えながらも、この方向性で引き続き推進を。
B		改善・見直しの必要があります 施策実施状況から、「努力・改善・見直しが必要」。
C		改善・見直しを行い一層の努力が必要です 施策実施状況から、「より一層の努力・改善・見直しが必要」。

②デジタル田園都市国家構想交付金対象事業の評価（効果検証）

事業名		総合戦略における KPIへの効果
1	生きがいと社会貢献を育む新地域コミュニティの構築事業	効果あり (基本目標3、4)
2	伝統のまち「はんだ」の魅力向上事業	効果あり (基本目標1～4)
3	農業起点の地域プラットフォーム創出による交流活性化事業	効果あり (基本目標1)

(3) 有識者会議の開催経過

会 議	日時・場所	内 容
第1回会議	令和6年7月3日(水) 半田市役所 庁議室	<ul style="list-style-type: none">・ 評価会議に向けた事前調整・ 総合戦略の改定の概要説明
第2回会議	令和6年8月21日(水) 半田市役所 大会議室	<ul style="list-style-type: none">・ 総合戦略の評価 (基本目標3、4)
第3回会議	令和6年8月23日(金) 半田市役所 庁議室	<ul style="list-style-type: none">・ 総合戦略の評価 (基本目標1、2)・ デジタル田園都市国家構想交付金対象事業の評価・ 総合戦略の改定素案の検討
第4回会議	令和6年10月9日(水) 半田市役所 大会議室	<ul style="list-style-type: none">・ 評価報告書の承認、報告・ 市長、副市長との意見交換・ 総合戦略の改定素案の検討

4. 総合評価（庁内評価含む）

【令和6年度】 半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表

人口等の推移

(単位：人)

	2013年度 (平成25年度)	2014年度 (平成26年度)	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	
人口	119,352	118,929	118,700	118,824	119,077	119,775	
14歳以下	男	9,157	8,905	8,701	8,518	8,370	8,293
	女	8,350	8,116	7,963	7,775	7,679	7,624
15～39歳	男	18,788	18,432	18,196	18,180	18,254	18,442
	女	17,207	16,766	16,415	16,180	16,071	15,959
40～64歳	男	20,695	20,637	20,622	20,714	20,784	20,988
	女	19,801	19,699	19,675	19,728	19,840	20,016
65歳以上	男	11,208	11,670	12,059	12,380	12,559	12,754
	女	14,146	14,704	15,069	15,349	15,520	15,699
転入者数	4,522	4,271	4,803	4,834	5,117	5,628	
転出者数	4,650	4,568	4,701	4,380	4,423	4,835	
出生数	975	966	989	965	924	946	
死亡数	1,078	1,002	1,000	1,108	1,102	1,147	

	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	
人口	120,051	119,590	118,873	117,833	117,418	116,481	
14歳以下	男	8,152	8,056	7,872	7,685	7,522	7,324
	女	7,574	7,455	7,261	7,088	6,912	6,759
15～39歳	男	18,485	18,186	17,841	17,434	17,347	17,122
	女	15,954	15,741	15,447	15,108	14,935	14,666
40～64歳	男	21,103	21,119	21,156	21,178	21,223	21,145
	女	19,995	19,937	19,951	19,936	19,969	19,829
65歳以上	男	12,922	13,076	13,215	13,214	13,266	13,350
	女	15,866	16,020	16,130	16,190	16,244	16,286
転入者数	5,435	4,534	4,586	5,001	5,031		
転出者数	5,136	4,989	5,043	5,138	5,067		
出生数	900	880	791	785	679		
死亡数	1,090	1,190	1,220	1,298	1,344		

※2013～2023年度人口は各年度10月1日現在、2024年度人口は8月1日現在の住民基本台帳より引用。

【参考】半田市人口ビジョンにおける人口展望（各年度10月1日時点）

(単位：人)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
国勢調査ベース	116,360	116,200	116,140	116,080	116,020	115,960
住民基本台帳 ベースに換算	117,864	117,710	117,638	117,566	117,494	117,422

※2019～2020年度の数値は、2015年度から2020年度の間に均等に減少するものとして算出。

※2021～2024年度の数値は、2021年度から2025年度の間に均等に減少するものとして算出。

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（基本目標）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

基本的方向

- 経営の安定化や新規の事業展開、創業に対する支援をし、企業の競争力向上を目指すとともに、賑わいの創出を図るため、商業の活性化に取り組みます。
- 市内に企業が進出しやすい環境を整え、誘致活動を強化することで地域経済の活性化と雇用の創出をします。
- 新規就農者を増やすとともに、農業者の「稼ぐ力」の向上を目指します。
- 求人と求職のマッチングに取り組み、若い世代を中心に就労を支援します。

【基本目標における数値目標の実施状況】

指 標	基準値 (2018)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
有効求人倍率	1.6倍	1.46倍	0.91倍	1.12倍	1.20倍	1.25倍		1.6倍	C
目標値に対する達成度			基準値未満	基準値未満	基準値未満	基準値未満			
製造業従業者数	16,584人	16,584人 (2018)	17,756人 (2019)	18,054人 (2020)	19,497人 (2021)	20,081人 (2022)	(2023)	17,500人	AA
目標値に対する達成率			127.9%	160.5%	318.0%	381.8%			
農業産出額	762 千円 (2017)	747 千円 (2018)	769 千円 (2019)	762 千円 (2020)	777 千円 (2021)	827 千円 (2022)	(2023)	765 千円 (2023)	AA
目標値に対する達成率			233.3%	0.0%	500.0%	2166.7%			

市内全体評価

※取組に対する全体評価、基本目標における数値目標に対する達成状況、今後の課題等

有効求人倍率については、コロナ禍が明けて回復傾向で、2023年度は1.25倍であった。求人数の増加傾向、求職者数の減少傾向は続いているが、そもそも市内企業を知らない状況もあることから、はんだオープンファクトリー（※）や市内高校での企業PRにより、認知度向上に努める。

製造業従業者数については、コロナ禍の社会経済活動の停滞で伸びは鈍化したものの、その後は自動車部品等製造業を中心に順調に増加しており、目標値を上回っている。各種補助金、優遇税制や工業団地整備事業等の産業施策を引き続き展開し、幅広く企業の事業活動を支援していく。

農業算出額については、毎年増減はあるものの、2023年度(2022)は、これまでPRを継続してきた知多牛ブランドである肉用牛の算出額が増加したことに伴い、827千円となり、目標を達成した。今後も強みとなっている知多牛ブランドを推進し、また、2022年12月より登用した6次産業化プロジェクトリーダーとともに市内市外問わず、農業者等のつながりを創出していくことで、市の農業振興を図っていく。また、引き続き多様な担い手を確保していくとともに、今後は、ECサイトを活用した販路拡大の支援等を行い、農業者の支援・育成を行う。

中心市街地活性化では、市長特任顧問の指揮のもと、官民連携で持続可能なまちづくりを推進していくため、中心市街地活性化協議会の設立にむけ準備会で地域の関係団体等と意見交換や調整を進めた。地域のプレイヤーたちとエリアビジョンを策定し、令和6年度の中心市街地活性化基本計画の策定につなげる。また、半田市創造・連携・実践センターを設置し、人材育成や交流や地域の主体的な取組を創出することで、エリア内の人口増や民間投資の誘発を促し、エリア価値向上を目指す。

※はんだオープンファクトリー：参加企業が一齐に「工場・現場」を開放し、見学、体験（ワークショップ）などを通して、半田市内の多種多様な「ものづくり」の現場を見学・体感できるイベント

有識者会議全体評価（意見・提言）

有識者会議全体評価

A



委員の内訳
 AA … 0人
 A … 6人
 B … 2人
 C … 0人

第2期総合戦略
各年度の評価

・R3年度：A
 ・R4年度：A
 ・R5年度：A

○良いところ・伸ばしていくべき部分

【農業の担い手の育成、農業経営基盤の強化】

産直ECサイトの活用や農業マルシェ、農家を対象としたセミナー等、農業の6次産業化や担い手育成に向けた新たな取組が進められている。

【地元企業のPR、人材獲得】

若者の地元就職につながる取組として、はんだオープンファクトリーや市内高校での地元企業による説明会を行っており、地元企業の魅力を伝える機会の創出が図られている。

【中心市街地活性化】

民間主導での中心市街地の活性化に向けて、様々な人を対象としたワークショップ等の取組を実施できている。子育て中の世帯を対象としたワークショップをきっかけに、民間の参加者による自主的なワークショップに発展する事例も生まれており、広がりのある取組が行えている。

【取組全般】

前述のとおり、農業振興や中心市街地活性化、企業支援等の幅広い分野において、新たな取組や試験的な取組にチャレンジできている。

○良くないところ・改善が必要な部分

【知多牛ブランドの強化】

知多牛をより魅力的なブランドにしていくために、消費者に向けた露出、消費者との接点の創出に取り組めるとよい。

【工業団地の整備】

石塚地区における工業団地の整備事業について、進捗に遅れが生じることのないように事業を進めていく必要がある。

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

【施策I】 競争力ある企業活動に向けた支援と持続可能な商業の振興

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指標	基準値 (2018)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
起業・会社設立支援補助 金利用件数（累計）	-	0件	4件	7件	11件		20件	B
目標値に対する達成率		0.0%	20.0%	35.0%	55.0%			
企業立地件数（累計）	-	0件	1件	1件	1件		3件	B
目標値に対する達成率		0.0%	33.3%	33.3%	33.3%			
飲食店営業施設数(営業許 可施設数)	1,102 施設 (2018)	1,077 施設 (2019)	1,061 施設 (2020)	1,049 施設 (2021)	1,052 施設 (2022)	(2023)	1,110施設	C
目標値に対する達成率		基準値未満	基準値未満	基準値未満	基準値未満			

KPIに対する 達成状況評価 ※当該年度の達成状 況、数値の変化要因 等	起業・会社設立支援補助金利用件数（累計） 2023年度は、4件の起業者を支援した。コロナ禍の影響が極めて大きかった2020年を除き、市内の創業意欲は引き続き高い状況にあり、今後も商工会議所や金融機関等と連携して起業者を支援していく。
	企業立地件数（累計） 2023年度の新規立地企業は無かったが、工場増設に伴う補助金認定や先端設備導入など企業の投資意欲は旺盛であった。コロナ禍やそれに起因する部品供給不足、原材料高騰など事業環境が目まぐるしく変化するなか、今後も市内への立地につなげられるよう補助制度等の周知や事業環境整備に努めていく。
	飲食店営業施設数(営業許可施設数) 飲食店営業施設数(営業許可施設数)について、大きな増減はなく、横ばいを推移している。2021年度の食品衛生法の改正により、これまで飲食店営業の分類で認可されていた施設が、一部他分野の認可対象施設に移行となったため、実際には半田市内の飲食店を営業している施設数が減少傾向にあるわけではないと考えられる（保健所へヒアリングを実施）。一方で、飲食店営業施設数を増加に繋げていくことができるよう、今後も商工会議所と連携し、新規出店希望者の支援（商業施設助成事業の利用促進等）を図っていく。

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

【施策Ⅰ】 競争力ある企業活動に向けた支援と持続可能な商業の振興

①企業経営の支援

○主要な事業、取組

A. 企業立地・創業支援事業

(産業課)

○事業の概要（目的、実施内容）

設備投資に係る優遇措置や各種相談を通じて本市への企業立地を推進する。創業支援については、商工会議所や地域の金融機関と連携し創業者を支援するとともに、起業・会社設立支援補助金を実施し、雇用創出や地域の活性化を図る。

○事業の自己評価、成果等

起業・会社設立支援補助金については、4件を交付し創業を支援した。中小事業者の先端設備等導入計画を22件認定し、設備投資等を支援した。また、令和4年に立ち上げた臨海部工業団地アクセス道路渋滞対策勉強会を開催し、行政・公安委員会・臨海部工業団地内企業が実施する渋滞対策について情報共有及び意見交換を行ったほか、臨港道路の右折レーン設置の検討を進めることができた。

○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	3,579 千円	783 千円	75,531 千円		

B. 産業振興会議事業

(産業課)

○事業の概要（目的、実施内容）

農商工の関係者のほか、学識経験者や商工会議所等の幅広い分野のメンバー構成による常設の「産業振興会議」で、産業に関する様々な課題を議論・検討する。令和5年度は、「人材獲得のための分科会」と「未来志向の勉強会」の2つの分科会を立ち上げ、アンケート調査と勉強会を実施した。

○事業の自己評価、成果等

「人材獲得のための分科会」では人材に関するアンケート調査を実施し、市内事業者が人材確保に苦慮している状況を把握した。こうした結果を受け、産業振興会議において地元企業のPR強化が必要であるという意見がまとまり、はんだオープンファクトリーや6年度に高校生に対する企業PRを実施することとした。また、「未来志向の勉強会」では、創造実践研究会を開催し、イノベーションに必要な「0⇒1」の発想力を身に付けるため、「柔軟な思考」を一貫したテーマとした講座を実施した。常に自由な発想を持つためには、緩いつながりによる情報の交換や違う視点、スキルを持ったメンバーによる共同作業が効果的であり、本勉強会はその実践の現場となった。

○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	207 千円	1,026 千円	3,308 千円		

○その他の事業、取組

C. 商工業振興事業（半田商工会議所中小企業相談事業補助金）

(産業課)

○事業費 2023年度(R5決算額)	3,150 千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	----------	---------	-----

D. 中小企業金融対策事業

(産業課)

○事業費 2023年度(R5決算額)	225,002 千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	------------	---------	-----

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

【施策Ⅰ】 競争力ある企業活動に向けた支援と持続可能な商業の振興

②企業誘致の推進

○主要な事業、取組

A. 企業立地・創業支援事業

(半田市企業再投資促進補助金・高度先端産業立地奨励金)

(産業課)

○事業の概要（目的、実施内容）

本市に新規進出する企業に向けた高度先端産業立地奨励金や本市からの流出防止及び設備投資を促進する半田市企業再投資促進補助金等の優遇制度により、企業の事業拡大を支援する。

○事業の自己評価、成果等

企業再投資促進補助金については、1社（神谷鉄工㈱）の設備投資計画を認定し、設備投資が完了した4社（㈱豊田自動織機、㈱中埜酢店、㈱三若純薬研究所及び㈱ナカノ工業）に交付した。企業の投資は社会経済状況に大きく左右されるが、積極的に相談を行うなど支援を引き続き行っていく。

○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	250,000 千円	532,305 千円	177,161 千円		

B. 石塚地区工業団地整備事業

(産業課)

○事業の概要（目的、実施内容）

市内の工業用地は既存企業で埋まっており、企業進出や事業拡大には新たな工業用地が必要になるため、工業団地の造成により、企業誘致を推進する。

○事業の自己評価、成果等

県企業庁が実施する第2回用地造成事業審査会に向けて、開発区域内の地権者の同意等の審査要件を達成することができたものの、要件の一つであるアクセス道路の同意取得を達成することはできなかった。引き続き交渉を行い、早期に第2回用地造成事業審査会の承認を得る必要がある。

○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	22,895 千円	0 千円	58,128 千円		

C. 中億田地区工業用地整備事業

(産業課)

○事業の概要（目的、実施内容）

市内の工業用地は既存企業で埋まっており、企業進出や事業拡大には新たな工業用地が必要になるため、臨海部工業団地の後背地である中億田地区において基盤整備を行い、企業誘致を推進する。

○事業の自己評価、成果等

道水路等設計委託を行い、工業用地に必要なインフラ計画を立てることはできたものの、進出希望企業の意向を確認したところ、社会経済情勢の変化等から検討を継続しており、地域経済牽引事業計画の提出には至らなかった。民間主導の開発となるため、今後も区域内に隙間が生じないように企業誘致を進めていく必要がある。

○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	0 千円	33,247 千円	0 千円		

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

【施策Ⅰ】 競争力ある企業活動に向けた支援と持続可能な商業の振興

③持続可能な商業の振興

○主要な事業、取組

A. 民間人材活用事業（中心市街地活性化）

（産業課）

○事業の概要（目的、実施内容）

中心市街地において、JR武豊線連続立体交差化事業等でハード面でも街の姿が大きく変化するこの時期に、民間人材を市長特任顧問として登用することで、中心市街地活性化の取組を一層加速化させる。専門知識や柔軟な発想により課題解決を図るとともに、民間の発想を職員に浸透させることで仕事に対する意識改革を図る。（市長特任顧問報酬・旅費に係る費用弁償、市役所側のリモートワーク環境整備）

○事業の自己評価、成果等

特任顧問の指揮のもと、中心市街地活性化推進方針において、多様な目的を作ることで、多様な人が来る・関わる・暮らす・働くような仕掛けづくりを進めることを示し、特に西側の知多半田エリアを活性化の核とし、半田駅前や半田運河との連携を進める事業展開を行った。また、地域と行政の対話に努め、官民連携による中心市街地の持続可能なまちづくりの仕組みを作るための協議会設立準備会、庁内連絡会議、未来図やコンセプトブックの作成、エリアマネジメント会社の設立など、地域自治や民の自主的な活動につながった。半田運河や知多半田駅前の公共空間を活かした実証実験で行ったベンチ設置やキッチンカー出店取組は、人が集う場となった。

○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	4,956 千円	8,925 千円	0 千円 ※		

※2024年度は、C. 中心市街地活性化事業に合算

B. 中心市街地活性化支援事業

（産業課）

○事業の概要（目的、実施内容）

半田商工会議所が中心となって中心市街地の関係者と連携を図りながら、事業者による販売促進イベントや地域住民参加型のイベントなどのソフト事業を開催することで市内外からの集客を図るとともに中心市街地への新規来訪者とりピーターの増加を図る。中心市街地商業活性化にぎわい事業補助金及び中心市街地ビジョン推進事業補助金を交付する。

○事業の自己評価、成果等

中心市街地において事業者等によるイベントの企画実施、はんだ山車まつりを意識した巨大提灯をモニュメント的に設置したことで、多くの人が集まるきっかけとなり、商店街のPRの向上と、賑わいの創出につながった。また、学生目線でのまちづくりを企画・実施したことにより、若者が参画する機会を創出した。

○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象 (地方創生推 進)
	3,686 千円	3,615 千円	3,800 千円		

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

【施策I】 競争力ある企業活動に向けた支援と持続可能な商業の振興

C. 中心市街地活性化事業

(産業課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
<p>中心市街地において、JR武豊線高架事業等のハード整備で街が大きく変化する好機をとらえ、地域とともに持続可能な組織づくりを行いながら公民連携のまちづくりを行う。中心市街地に多様な目的や場を作り、人づくりを行い、担い手や関係人口を増やし、エリア価値を高め、税収確保や持続可能な地域づくりにつなげる。（先進地視察、アンケート調査、まちづくりセミナー、未来図づくりワークショップ及び未来図やコンセプトブックの作成、おおまた公園モニュメント移設工事、創造・連携・実践センターデザイン、通行量調査）</p>					
○事業の自己評価、成果等					
<p>官民で実施した先進地視察では、まちづくり組織運営や公共空間利活用に対する共通認識を持ったことで有意義な意見交換ができるようになった。全国で活躍する講師を招いたまちづくりセミナーにより中心市街地活性化の必要性の理解が進んだ。未来図づくりワークショップや、創造・連携・実践センターのデザインワークショップを通じ、まちづくりの担い手の顔が見え、交流や情報拡散されることで話題性や機運醸成につながった。知多半田と半田運河にはエリアマネジメント組織が立ち上がり、中心市街地活性化に関わりたい人の受け皿として核となり、民の自主的な活動の促進につながっている。一方で、半田駅前には担い手や運営組織が見えてきていないことが課題である。</p>					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	-	23,351 千円	153,509 千円		

D. 商業施設助成事業

(産業課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
<p>都市が郊外化したことにより、中心市街地をはじめとする既存の商業地域の衰退が進みつつあるなか、魅力ある個店の展開を支援することで、商業の活性化と市民生活の向上を図るため、商業施設（店舗）の内装工事にかかる新設・改装費用を2分の1を補助する。</p>					
○事業の自己評価、成果等					
<p>中心市街地3件（内、出店促進エリア2件）、商店街エリア1件、鉄道駅周辺3件の事業者に対して施設整備費、改装費を補助したことにより、魅力ある個店の展開につなげた。</p>					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象 (地方創生推 進)
	3,453 千円	5,213 千円	12,000 千円		

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる

【施策I】 競争力ある企業活動に向けた支援と持続可能な商業の振興

E. J R半田駅前土地区画整理事業

(市街地整備課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
J R半田駅前地区において、J R武豊線の高架にあわせ土地区画整理事業を実施し、面整備と幹線道路等の整備による一体的な市街地を形成することで、住環境の向上と中心市街地の活性化に繋げる。					
○事業の自己評価、成果等					
建物移転について、地権者と交渉を重ねることで13件の契約を締結することができた。また、移転が完了した部分から速やかに区画整理工事を実施し、南側区域ほぼ全域の使用収益を開始することができた。					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	1,121,519 千円	1,392,293 千円	1,135,643 千円		

F. J R武豊線連続立体交差化事業

(市街地整備課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
J R武豊線を高架化し、9か所の踏切を除却することにより、12か所の交差道路を整備する。また、鉄道沿線に側道6路線を整備する。このことにより、東西交通の円滑化、駅へのアクセス向上及び沿線環境の保全を図る。					
○事業の自己評価、成果等					
高架側道整備事業について、粘り強く交渉したことで残り2件となっていた用地の取得（契約）をすることができた。 高架下空間の活用について、沿線事業者の聞き取り調査や臨海部の企業へアンケート調査、半田小学校や幼稚園のPTAを中心としたワークショップによるニーズ把握を行い、区画整理区域外の高架下に係る基本方針案を作成した。また、高架下も含めた駅周辺の整備については、J R東海と相互連携した検討体制を構築できた。					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	504,209 千円	470,521 千円	667,534 千円		

○その他の事業、取組

G. 商工業振興事業

(商店街活性化事業費補助金・半田商工会議所中小企業相談事業補助金)

(産業課)

○事業費 2023年度(R5決算額)	3,316 千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	----------	---------	-----

H. 知多半田駅前再開発ビル商業施設利用促進事業

(産業課)

・大規模修繕積立金の単価値上げに伴い衝立費用が増加 ・駐車場利用者増加に伴い、駐車場利用促進事業への補助額が増加			
○事業費 2023年度(R5決算額)	8,053千円	○デジ田交付金	対象外

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる
【施策Ⅱ】農業の担い手づくりと持続的な農業経営基盤の構築

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指標	基準値	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
認定新規就農者数 (累計)	-	2人	4人	5人	6人		6人	A
目標値に対する達成率		33.3%	66.7%	83.3%	100.0%			
新規集積面積（累計）	-	10.5ha	18.0ha	31.3ha	40.4ha		7.5ha	AA
目標値に対する達成率		140.0%	240.0%	417.3%	538.7%			

KPIに対する 達成状況評価 ※当該年度の達成状況、数値の変化要因等	認定新規就農者数（累計） 県やJA、農業委員会等の関係機関と連携を図り、認定新規就農者を1名確保し、次世代の担い手を増やすことができた。就農に向けた新規相談を随時行っており、R5年度は16件の就農相談を受け、関係機関と連携し、次年度以降に新規就農者としてつながるように農地の斡旋・販路等の経営支援を行った。また、市独自の就農者向けパンフレットを農業大学校等で配布し、本市で就農する魅力についてPRを行った。学生からは多くの質問があり、半田市での就農に対し関心の高さを感じた。
	新規集積面積（累計） 農業者の高齢化や後継者不足等により耕作できなくなった農地を、耕作放棄地になる前に、新規就農者や意欲ある担い手等に斡旋することで、耕作放棄地の新規発生を抑止し、担い手の農地の集積化に繋げた。有脇地域においては、農地集積協力金事業を活用して、地域と一緒に農地中間管理事業による集積に取り組む予定であったが、地域の事情により令和5年度は実施できなかった。今後地域との調整により、耕作放棄地の抑制と担い手への農地集積化の更なる促進に繋げていく。

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる
【施策Ⅱ】農業の担い手づくりと持続的な農業経営基盤の構築

①担い手の育成・確保 / ②農業経営基盤の強化

○主要な事業、取組

A. 民間人材活用事業（6次産業化）

（産業課）

○事業の概要（目的、実施内容）					
農業を起点とした地域プラットフォームの創出や農家の個力の向上、情報発信強化を目指し、農家の価値を高めるための支援を行う。その一つとして、農家とともに農業マルシェを開催し、農家主体の地域プラットフォームが構築できるよう進めていく。					
○事業の自己評価、成果等					
農家同士や農家と他業種とのつながりの構築、農業の持続性や地域資源として感じられる場と機会として、農家交流会「○○と語り合う会」や農業マルシェの開催し、農業の価値を高めることができた。また、農業なんでも相談での個別相談や県研修会参加により、農家自身が考え、行動に移せるようになった。					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象 (地方創生推 進)
	15,156 千円	6,141千円	9,529 千円		

B. 就農者支援事業

（産業課）

○事業の概要（目的、実施内容）					
経営の不安定な就農初期段階の青年就農者に対して、農業次世代人材投資資金・新規就農者経営発展支援事業を交付する。					
○事業の自己評価、成果等					
経営開始直後の新規就農者に対して資金を交付することにより、早期の経営発展と定着を図ることができた。					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	15,156 千円	7,125千円	16,653 千円		

○その他の事業、取組

C. 農業用施設一般維持修繕事業
（多面的機能推進事業）

（産業課）

○事業費 2023年度(R5決算額)	9,927 千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	----------	---------	-----

D. 農業経営基盤強化資金利子補給事業

（産業課）

○事業費 2023年度(R5決算額)	354 千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	--------	---------	-----

E. 農地集積推進事業

（産業課）

○事業費 2023年度(R5決算額)	0 千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	------	---------	-----

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる
【施策Ⅱ】 農業の担い手づくりと持続的な農業経営基盤の構築

③知多牛ブランド力の強化

○主要な事業、取組

A. 地産地消普及事業

(産業課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
地場産業である知多牛をはじめ、農業及び農業施策をPRし、農業振興を図る。					
○事業の自己評価、成果等					
フジテレビの情報番組「めざましテレビ」のめざましじゃんけんコーナーへの知多牛出品、知多牛提供店舗や生産者紹介などを掲載した知多牛パンフレットを市内施設等に設置することで知多牛の地産地消の普及を図った。					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	2,200 千円	3,363千円	3,840千円		

○その他の事業、取組

B. シティプロモーション推進事業

(企画課)

本市の魅力発信及び愛着醸成を目的とした事業である「はんだの魅力発見ツアー」において、牧場潜入ツアーを実施した。市内外の親子を受け入れ、市内の知多和牛の牧場にて見学や肉の食べ比べを行い、知多牛・知多和牛の魅力発信につなげた。			
○事業費 2023年度(R5決算額)	4,758 千円	○デジ田交付金	対象 (地方創生推進)

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 1 産業を振興し安定して働く場のある「まち」をつくる
【施策Ⅲ】 就労の支援と勤労者福祉

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指標	基準値 (2018)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
Uターン者数（人／年）	890人	808人	822人	934人	821人		1,000人	C
目標値に対する達成率		基準値未満	基準値未満	40.0%	基準値未満			
市内の高校を卒業して就業する者のうち市内に本社を設置する企業への就職率	16.6%	11.7%	11.7%	11.9%	12.6%		25.0%	C
目標値に対する達成率		基準値未満	基準値未満	基準値未満	基準値未満			

KPIに対する 達成状況評価 ※当該年度の達成状況、数値の変化要因等	Uターン者数（人／年） 市外在住者向けのアウトプロモーションとして、専用サイト「はんだで暮らす」による情報発信や本市への転入が見込まれる西三河地区の地域情報誌への記事掲載等を実施したものの、指標としては基準値や前年度実績を下回る結果となった。 今後、「はたらく親を応援するまち」という都市イメージの構築を目指し、子育て世帯に向けた施策を展開していく。併せて、プロモーターへの広報委託等、はたらく親を応援する施策がマスコミに取り上げられ、広く周知される広報活動を実施していく。 これらの取組により、Uターン者を含む転入者の増加につなげていく。
	市内の高校を卒業して就業する者のうち市内に本社を設置する企業への就職率 農商工の専門科3校を令和6年3月に卒業し、就職した者349人のうち、半田市が本社の企業へ就職したのは44人で前年度比0.7ポイント増の12.6%であった。 地元企業を知らない高校生も多く、就職の選択肢に入っていない状況もあることから、地元企業への関心や認知度を高めるために、地元高校での企業PRやオープンファクトリーの開催により、主に若年層に地元企業を知っていただく取組を実施していく。

①就労支援 / ②勤労者福祉

○その他の事業、取組

A. 雇用対策事業

(産業課)

○事業費 2023年度(R5決算額)	303 千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	--------	---------	-----

B. 中小企業勤労者福祉サービスセンター事業

(産業課)

○事業費 2023年度(R5決算額)	8,381 千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	----------	---------	-----

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（基本目標）

基本目標 2 市内外から人々が集い活発な交流のある「まち」をつくる

基本的方向

- 本市の歴史や文化に育まれた地域資源を活用するとともに、市民と市外の人との積極的な交流を促し、交流人口や関係人口の拡大を目指します。
- 隣接市に中部国際空港が立地する条件とリニア中央新幹線開通を見据え、インバウンド誘客を推進します。

【基本目標における数値目標の実施状況】

指 標	基準値 (2018)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
観光入込客数（人／年）	168万人	167万人	56万人	79万人	134万人	157万人 ※		183万人	C
目標値に対する達成率			基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿			

※2023(R5)年度の観光入込客数は、第九回はんた山車まつりの入込客数（55万人）を除いた実績値

市内全体評価

※取組に対する全体評価、
基本目標における数値目標に
対する達成状況、
今後の課題等

半田市の観光資源を活用したプロモーションやイベント等を実施することで魅力発信と誘客を図るとともに、通年のいいかも半田キャンペーン等により回遊の促進や日常的な誘客を図った。また、今までのポスターやチラシ等による広報に加えて、SNS広告の推進や旅行系インフルエンサーの活用により新たな客層の誘客につながり、前年度の観光入込客数を上回った。一方で、目標値には達しておらず、雨天など自然的要因によるイベントの中止や縮小などの影響が考えられる。イベントによる誘客は知名度や魅力を発信する手段としては有効であるものの、天候に左右されることが多いため、目標値達成のためには、さらなる日常的な誘客が必要である。

今後、既存の観光施設のブランド力の向上を図り、高付加価値なコンテンツ造成を行うとともに、民間活力を活かした観光まちづくりを行うことで、賑わいの創出を図る。

このほか、客観的な人口動態データを活用することで、観光客の回遊性や滞在時間等を分析し、よりニーズに沿った観光事業を実施する必要がある。

有識者会議全体評価（意見・提言）	
<div data-bbox="209 168 475 219" data-label="Text">有識者会議全体評価</div> <div data-bbox="209 226 475 432" data-label="Complex-Block"> <p>B</p>  </div> <div data-bbox="209 439 475 645" data-label="Text"> <p>委員の内訳 AA …0人 A …3人 B …4人 C …0人</p> </div> <div data-bbox="209 651 475 947" data-label="Text"> <p>第2期総合戦略 各年度の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ R3年度：B ・ R4年度：B ・ R5年度：B </div>	<div data-bbox="544 226 1056 264" data-label="Section-Header">○良いところ・伸ばしていくべき部分</div> <div data-bbox="544 259 981 295" data-label="Section-Header">【観光入込客数、インバウンド】</div> <div data-bbox="544 291 1469 360" data-label="Text"> <p>観光入込客数は、コロナ前の基準値までは回復しないが復調しつつある。また、インバウンドによる誘客も順調に回復している。</p> </div> <div data-bbox="544 356 1098 392" data-label="Section-Header">【インフルエンサーを活用した情報発信】</div> <div data-bbox="544 389 1469 456" data-label="Text"> <p>新たな取組として、旅行系インフルエンサーを活用したSNS上での情報発信を行っている。</p> </div> <div data-bbox="544 486 1056 521" data-label="Section-Header">○良くないところ・改善が必要な部分</div> <div data-bbox="544 517 1040 555" data-label="Section-Header">【観光コンテンツの造成と魅力発信】</div> <div data-bbox="544 551 1469 651" data-label="Text"> <p>尾州早すしの取組や指標の設定には限界がある。今後、醸造・発行をテーマとした観光施策を広く進めるにあたり、誘客の主力となるようなコンテンツの造成やその魅力の発信に取り組む必要がある。</p> </div> <div data-bbox="544 647 833 685" data-label="Section-Header">【半田赤レンガ建物】</div> <div data-bbox="544 680 1469 784" data-label="Text"> <p>半田赤レンガ建物の来館者数が減少しており、達成度としても伸び悩んでいるにもかかわらず、その要因を把握、分析できていない。改善に向けて、減少要因の分析を行っていく必要がある。</p> </div>

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 2 市内外から人々が集い活発な交流のある「まち」をつくる
【施策I】 地域資源を活用した観光とつながりづくりの推進

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指標	基準値 (2018)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
半田赤レンガ建物来館者数（人／年）	519,403人	122,607人	197,570人	411,089人	372,516人		550,000人	C
目標値に対する達成率		基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿			
店舗での尾州早すし提供数（食／年）	650食	1,540食	1,450食	570食	460食		10,000食	C
目標値に対する達成率		10.5%	9.5%	基準値未滿	基準値未滿			
レンタサイクルの利用回数（回／年）	2,349回	1,315回	1,069回	1,562回	1,598回		3,300回	C
目標値に対する達成率		基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿			
ふるさと納税者数（人／年）	338人	921人	2,697人	4,967人	3,203人		10,000人	B
目標値に対する達成率		6.4%	26.0%	51.0%	31.6%			

KPIに対する達成状況評価 ※当該年度の達成状況、数値の変化要因等	半田赤レンガ建物来館者数（人／年） 新たにインフルエンサーによるイベントPRを行ったことで、客層の変化や遠方からの来場が多くあり、新しい層への魅力発信につながったが、年間来館者数は基準値に達しておらず、また、前年度より減少する結果となった。館内に魅力あるコンテンツの造成や利用し易い仕組みを構築することで、イベントによる誘客だけではなく日常的な誘客増を目指していくとともに、令和6年度中に実施する指定管理者の選定においても、来館者数の増加を目指した提案を重視していく。
	店舗での尾州早すし提供数（食／年） 尾州早すしを提供している店舗は昨年度1月に1店舗減少し、現在は1店舗のみ（予約限定）の提供となっている。提供店舗数が増加する見込みがないため、提供数の増加は難しい状況である。
	レンタサイクルの利用回数（回／年） レンタサイクルの利用回数は、前年度から微増しているものの、ほぼ同数であった。基準値達成のためには、貸出拠点の増加や利便性の向上を図る必要がある。
	ふるさと納税者数（人／年） 国の制度改正により地場産品基準が厳格化されたことで、62品が出品停止となったことや、人気の返礼品が店舗移転等のため出品停止していることなどが目標値に届かなかった主な要因である。今後、事業者の思いや返礼品の魅力が伝わるような返礼品ページの作りこみを行うことや、シティープロモーション事業と連携して寄附の増加を目指すとともに、ふるさと納税を通じた半田市の魅力発信を行っていくことが必要である。

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 2 市内外から人々が集い活発な交流のある「まち」をつくる

【施策I】地域資源を活用した観光とつながりづくりの推進

- ①観光資源の充実と観光客の満足度向上／②回遊性の向上／
③交流の促進と関係人口の拡大

○主要な事業、取組

A. 観光振興事業

(観光課)

○事業の概要（目的、実施内容）

半田市の観光資源「山車・蔵・南吉・赤レンガ」を活用し、観光振興を図る。名鉄とタイアップしたいいかも半田キャンペーン推進事業や寿司にスポットをあてた食の観光推進事業、インフルエンサーを活用した観光情報拡散促進事業を実施し、半田市の観光の魅力をより一層PRし、観光客の誘客や知名度を向上させるとともに、地域経済の活性化を図る。

○事業の自己評価、成果等

半田市の観光資源を活用したプロモーションやイベント等を実施することで魅力発信と誘客を図るとともに、通年のいいかも半田キャンペーン等により回遊の促進や日常的な誘客を図った。また、今までのポスターやチラシなどによる広報に加えて、SNS広告の推進や旅行系インフルエンサーの活用により新たな客層の誘客につなげることができた。

○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象 (地方創生推進)
	52,513 千円	29,749 千円	34,485 千円		

B. 半田運河活性化推進事業

(観光課)

○事業の概要（目的、実施内容）

半田運河の景観や周辺観光施設、醸造の歴史・文化を活かしたイベントを充実させることにより、年間を通じた賑わいの創出を図る。飲食出店に加えて音楽・醸造・アート企画を中心とした新たなイベント「半田運河HOTORI HOLIDAY」の開催や、四季を感じる装飾（風鈴等）を半六庭園に設置し、写真映えするスポットを創出する「半田運河誘客スポット設置事業」を実施し、半田運河の認知度の向上と、賑わいの創出を図る。

○事業の自己評価、成果等

既存のイベントである、春の半田運河の鯉のぼりと萬三の白モッコウバラ祭、夏のCanal Nightは、季節を感じる運河周辺イベントとして広く市民や観光客に定着してきており、半田運河の知名度向上やブランド力向上に大きく寄与している。令和5年度は新たに、日常的な賑わい創出を目指す取組の一つとして、半六庭園内に風鈴棚を夏に1か月程度設置することで、来訪客の立ち寄り先として半田運河エリアの回遊促進につながり、また、写真映えスポットとして新たな客層の誘客にもつながった。

○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	18,561 千円	14,701 千円	13,696 千円		

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 2 市内外から人々が集い活発な交流のある「まち」をつくる 【施策 I】 地域資源を活用した観光とつながりづくりの推進
--

C. 半田赤レンガ建物管理運営事業

(観光課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
半田赤レンガ建物の歴史と文化財的価値の発信を通して、認知度向上と来訪者増加に伴う消費額の増加を図るため、民間のノウハウを活用した指定管理者制度を活用した、カフェ、ショップ、常設展示室、貸室の運営、誘客イベントの開催、建物の維持管理を行う。					
○事業の自己評価、成果等					
半田赤レンガ建物は令和7年7月に開館10周年を迎えるが、イベント毎の入込客数は増加しているものの、年間の入込客数は減少している。イベントに頼らない日常的な来場者増加のため、人を引き付ける建物の新たな魅力の創出や機能の向上を目指していく。令和6年度中に実施する指定管理者の選定においてもこの点を重視していく。インフルエンサーによるイベントPRは影響力の高さと即効性の実績が確認できたため、拡充を図る。					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	66,931 千円	64,100 千円	64,136 千円		

D. 第九回はんだ山車まつり開催事業

(観光課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
5年に一度、市内の山車31輦が勢揃いする知多半島最大のイベント「はんだ山車まつり」を開催するため、山車組、市民、関係団体等で構成する第九回はんだ山車まつり実行委員会へ、山車運行、警備、会場整備、各種PR等、開催に係る費用の一部を補助することで、全国から観光客を誘客し、半田の山車文化をPRする。					
○事業の自己評価、成果等					
多くの観客に来ていただき、新たに創設した+HANDAエリアでは、半田の歴史や食文化をPRすることができた。また、提灯の絵付け体験を実施することで市民や子供たちに山車まつりに親しんでもらい、シビックプライドの醸成を図ることができた。今後の課題として、まつり会場周辺に観客の飲食や休憩場所となる大きなスペースがないことなどから、道路内や特定の場所に観客が密集することによって、観客の誘導が困難であった。次回開催時は、まつり会場内で観客を分散させる仕組み作りをするとともに動線の確保などを行う必要がある。					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	-	129,879 千円	-		

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 2 市内外から人々が集い活発な交流のある「まち」をつくる
【施策 I】 地域資源を活用した観光とつながりづくりの推進

E. シティプロモーション推進事業

(企画課)

○事業の概要（目的、実施内容）

本市の都市イメージや認知度の向上を図るとともに、市民のまちへの愛着や誇りの醸成を図ることにより定住人口の獲得を目指す。
 西三河地域を対象にした情報誌「chaoo」にて「はんだ山車まつり」や「矢勝川沿いの彼岸花」の紹介記事を掲載したほか、半田の名産品開発として「半田の日本酒飲み比べセット」の制作、地域資源をささえる「人」や「思い」を紹介する魅力発見ツアーを実施した。

○事業の自己評価、成果等

転入者が見込まれる西三河地域といった地域を絞った情報発信を行うことができた。また、半田の魅力発見ツアーでは、市外からの応募や参加が多数あり、醸造のまち半田の歴史や生誕110年を迎えた新美南吉等について楽しく学んでもらうことで、半田のまちを知ってもらい、好きになってもらうきっかけを創出することができた。

○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象 (地方創生推進)
	4,459 千円	4,758 千円	8,520 千円		

○その他の事業、取組

F. 知多半島広域観光推進事業

(観光課)

○事業費 2023年度(R5決算額)	846 千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	--------	---------	-----

G. 半六庭園管理運営事業

(観光課)

○事業費 2023年度(R5決算額)	5,314 千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	----------	---------	-----

H. 社会体育振興事業

(スポーツ課)

○事業費 2023年度(R5決算額)	19,533 千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	-----------	---------	-----

I. 半田運河ベンチ設置事業

(都市計画課)

企業版ふるさと納税による寄附を活用し、半田運河周辺にベンチを設置した。

○事業費 2023年度(R5決算額)	1,298 千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	----------	---------	-----

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 2 市内外から人々が集い活発な交流のある「まち」をつくる 【施策Ⅱ】インバウンドの拡大に向けた取組みと効果的な情報発信

◎重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指 標	基準値	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
観光施設（半田赤レンガ建物、新美南吉記念館、ミツカンミュージアム、國盛 酒の文化館）の外国人観光入込客数（人／年）	-	694人	328人	632人	1,818人		1,200人	A A
目標値に対する達成率		57.8%	27.3%	52.7%	151.5%			
市及び観光協会が発信している観光SNSのフォロワー数（人／年）	11,760人 (2018)	20,138人 (2020)	24,656人 (2021)	30,307人 (2022)	35,914人 (2023)		20,000人 (2024)	A A
目標値に対する達成率		101.7%	156.5%	225.1%	293.1%			

KPIに対する達成状況評価 ※当該年度の達成状況、数値の変化要因等	観光施設（半田赤レンガ建物、新美南吉記念館、ミツカンミュージアム、國盛 酒の文化館）の外国人観光入込客数（人／年）
	コロナ禍が過ぎインバウンド需要が回復傾向となり、外国人観光入込客数は大きく増加し、目標値を上回ることができた。
	市及び観光協会が発信している観光SNSのフォロワー数（人／年）
	イベント毎にSNS広告を配信したことにより、より多くの方に本市を知ってもらう機会が増え、フォロワー数の増加につながった。

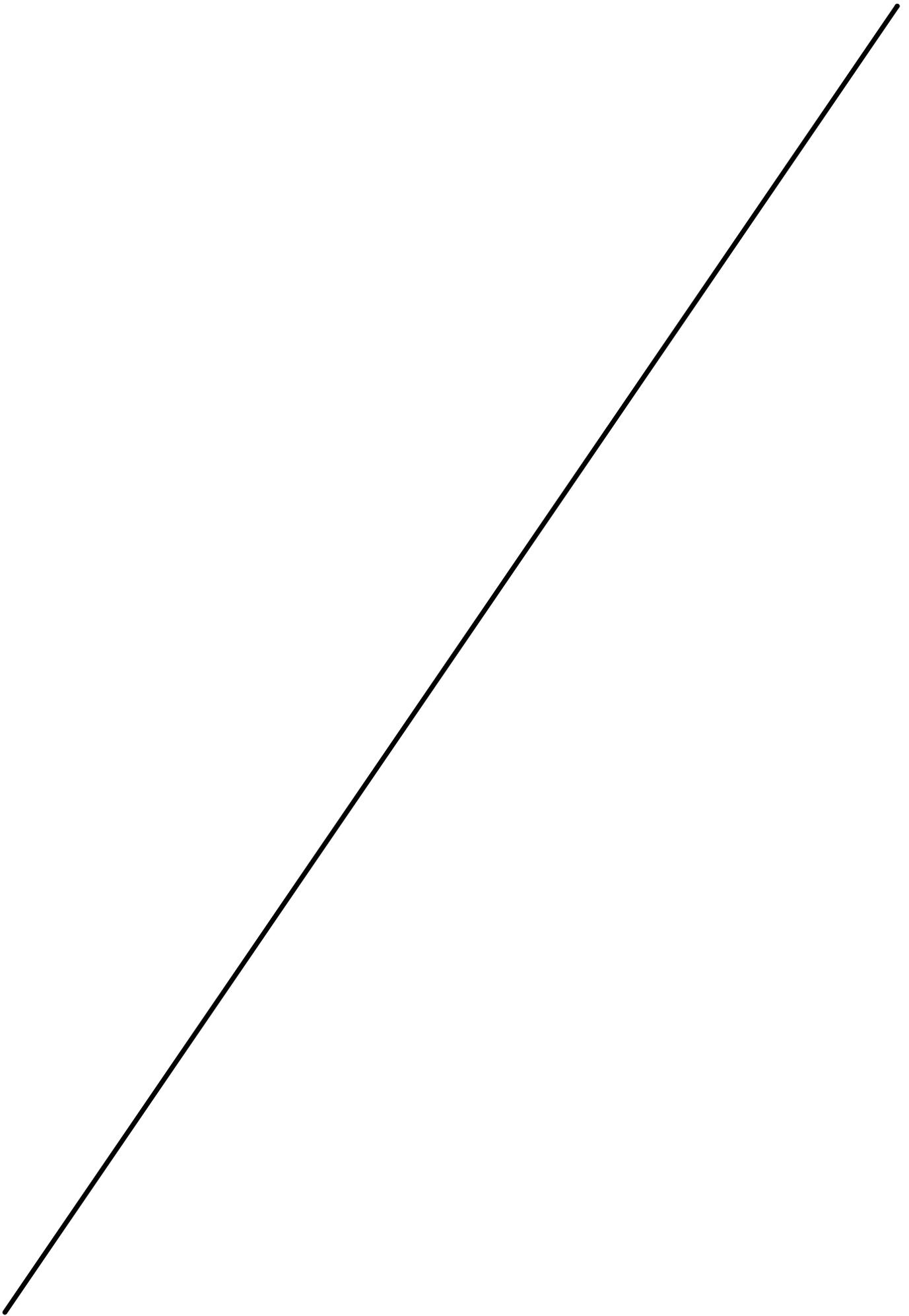
①インバウンドの掘り起こし／②インバウンドの受入強化 ／③情報発信力の強化

○主要な事業、取組

A. 市内におけるインバウンドに対する取組

（観光課）

○事業の概要（目的、実施内容）				
全国的なインバウンド需要が増加する傾向の中、外国人観光客の立ち寄り先となる施設の受け入れ態勢強化やコンテンツの創造を官民連携で行う。				
○事業の自己評価、成果等				
半田市観光協会を中心に、インバウンド向けパンフレットを作成した。また、発酵食文化を想定したインバウンド誘客を目的としたファムトリップ（※）に取り組み、新たな誘客コンテンツの創造と国内外へ魅力発信の足がかりとすることができた。				
※ファムトリップ：観光地誘客のためにターゲットとする国の旅行事業者やブローガー、メディア等に現地を視察してもらうツアーのこと				
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金 対象外
	-	-	-	



令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（基本目標）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

基本的方向

- 妊娠から出産、子育てまで切れ目のない支援により父母の不安や負担の軽減を図るとともに、仕事と子育ての両立を支援します。
- 子どもたちが、まちの歴史や文化を理解し、ふるさとに愛着と誇りを持ち続けられるとともに、確かな学力を身につけ、豊かな心や健やかな体を育むための教育を推進します。
- 若い世代が定住しやすい環境を整備します。

【基本目標における数値目標の実施状況】

指 標	基準値 (2018)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
合計特殊出生率	1.37 (2017)	1.45 (2018)	1.31 (2019)	1.40 (2020)	1.26 (2021)	1.23 (2022)	(2023)	1.80 (2023)	C
目標値に対する達成率			基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿			
若い世代(※)の転入者数 ※39歳以下の人	4,419人	4,309人	3,501人	3,482人	3,917人	3,973人		5,500人	C
目標値に対する達成率			基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿			
若い世代(※)の転出者数 ※39歳以下の人	3,781人	4,069人	3,893人	3,950人	4,044人	3,890人		3,700人	C
目標値に対する達成率			基準値超過	基準値超過	基準値超過	基準値超過			

庁内全体評価

※取組に対する全体評価、
基本目標における数値目標に
対する達成状況、
今後の課題等

若い世代に選ばれるまちとなるよう、子育て支援等の各種施策に取り組んだものの、合計特殊出生率は前年度からさらに低下した。その一方で、令和5年度は若い世代の転入出は転入超過に転換できた(①)。これは、外国籍市民の転入による影響が大きく(②)、日本人に限定すると依然として転出超過の状態にあるが、前年度との比較では日本人の転出超過も縮減されている(③)。

【転入出の差引(R4→R5の比較)】

(全体) ▲127人→+83人(①)、(外国人)+214人→+281人(②)
(日本人) ▲341人→▲198人(③) (※+は転入超過、▲は転出超過)

これまで本市では、子育て世帯への支援施策や区画整理等による居住環境の整備、学校教育施策の充実等に取り組んできた。特に令和5年度においては、不妊治療費助成事業として、これまで実施していた一般不妊治療に加えて特定不妊治療(生殖補助医療)に要する費用の一部を新たに助成することとし、不妊に悩む夫婦における経済的負担の軽減を図った。また、これまでの放課後児童クラブに加え、夏休みなど学校の長期休業中の預かり事業を新たに実施することにより、仕事と子育ての両立支援につなげる取組を実施した。

今後、子育て世帯をターゲットとして「はたらく親を応援するまち」という都市イメージの構築を目指した取組を展開していく。働く親の支援につながる効果的な取組の立案・実施と併せて、一連の取組を周知し、認知されるためのプロモーション活動が今後の課題である。

子育て世帯に向けた施策展開と併せて、プロモーターを活用した広報委託等によりマスメディアに取り上げられ、広く周知される広報活動を実施し、半田市が「はたらく親を応援するまち」として市内外に認知される状態を目指していく。

有識者会議全体評価（意見・提言）

有識者会議全体評価

B



委員の内訳

AA …0人
A …1人
B …6人
C …2人

第2期総合戦略
各年度の評価

・R3年度：A
・R4年度：B
・R5年度：B

○良いところ・伸ばしていくべき部分

【出産、子育てのしやすい環境整備】

不妊治療費の助成や子育て支援センターでの一時預かり、食材費高騰に対応するための保育所への補助等、子育て世帯に配慮したきめ細かな施策を数多く実施できている。

【保育におけるICT活用】

市立保育園においてICTサービス「コドモン」(※)を活用し、保護者と保育士の負担軽減が図られている。子育てや保育に不可欠な対人的な関わりの確保にも留意しながら、ICTも活用した負担軽減の取組を進めていけるとよい。

【市内に向けたプロモーション活動】

半田の魅力発見ツアー等、市民に対して半田市の魅力を伝え、愛着醸成につながるような取組を積極的に行っている。

○良くないところ・改善が必要な部分

【いじめ・不登校対策】

いじめ・不登校対策事業において、いじめ・不登校を「問題行動」として表現することについては改める必要がある。その一方で、取組自体は、いじめ・不登校の現状分析や他機関と連携した対応が図られており評価できる。

【市外に向けたプロモーション活動】

子育て支援を始めとして、良い取組が充実している。これらの取組を半田市の魅力のひとつととらえ、転入につながるように市外向けのプロモーション活動を強化していく必要がある。特に、若い世代の目にとまるような媒体での発信ができるとよい。

※ICTサービス「コドモン」：登降園管理・保護者連絡・帳票作成等をスマートフォン等のアプリケーションにて行える保育・教育施設向けのサービス。

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる 【施策I】 出産・子育てのしやすい環境の整備

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指 標	基準値 (2019)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
保育所等の 待機児童数	4月1日時点	0人	0人	0人	0人	0人	0人	C
	10月1日時点	9人	0人	16人	5人	27人	0人	
目標値に対する達成率(10月1日時点)		100.0%	基準値超過	44.4%	基準値超過			
放課後児童クラブ利用者数 (人/年)		931人	1,029人	1,030人	1,074人	1,066人	1,200人	B
	目標値に対する達成率		36.4%	36.8%	53.2%	50.2%		
理想とする子どもの人数が いるまたは持つ予定である 若い世代（女性）の割合		77.3%	61.3%	58.3%	52.1%	40.9%	80.0%	C
	目標値に対する達成率		基準値未満	基準値未満	基準値未満	基準値未満		

KPIに対する 達成状況評価 ※当該年度の達成状況、 数値の変化要因等	保育所等の待機児童数 子育て世代の女性の就業率が上昇傾向にあり、花園保育園の民営化により定員枠の拡大を図ったが、0歳児及び1歳児クラスの入所児童数が利用定員を上回り、年度途中で待機児童が発生した。引き続き、令和6年度からの新規小規模園増設、高根保育園の民営化を皮切りに、民間保育所の拡充を進めるとともに、「半田市子ども・子育て支援事業計画」や、「半田市保育園等公民連携更新計画」に基づき、民間保育所と公立保育所が連携し、さらなる低年齢児の受け入れ枠の拡大や多様化する保育ニーズの対応に努める。
	放課後児童クラブ利用者数 今後も共働き世帯等の増加に伴う放課後児童クラブ利用ニーズの増加が見込まれるため、受け皿の確保及び環境整備に努める。
	理想とする子どもの人数がいるまたは持つ予定である若い世代（女性）の割合 物価高騰による経済状況の変化等、先行きが見通せない中で長期的に子どもを産み育てていくことに対する不安が指標低下の一因となっていると考えられる。 こうした状況もふまえ、令和6年度より「はたらく親を応援するまち」という都市イメージの構築を目指し、公立保育園等における登園時の荷物を軽減するための事業や多子世帯の保育料無償化を行い、子育て世帯や若い世代の不安軽減につなげていく。

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策I】 出産・子育てのしやすい環境の整備

① 出産・子育てへの経済的応援

○ 主要な事業、取組

A. 子ども医療費助成事業

(国保年金課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
子どもに対して医療費を助成することにより、保護者の経済的な負担を軽減し、適切に医療を受ける機会の確保、健康の保持・増進等の福祉の向上を図る。ただし、中学生及び高校生等の通院費は自己負担分の2/3を助成する。					
○事業の自己評価、成果等					
受給資格者が医療費による経済的な負担等の影響を受けることなく、必要とする医療を適切に受ける機会を確保した。					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	537,339 千円	622,386 千円	611,153 千円		

B. 不妊治療費助成事業

(子育て相談課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
不妊に悩む夫婦に対し、不妊治療（保険適用の治療のみ）に要する費用の一部を助成することにより、その経済的な負担の軽減を図る。					
○事業の自己評価、成果等					
令和5年度から生殖補助医療を助成対象とするなど大きな制度改正を行った結果、経済的負担の軽減により安心して治療ができ、不妊治療費助成金を支給した夫婦で妊娠した件数が増加した。また、市報・ホームページ等での周知、県内の主要な医療機関へ制度改正の通知文書の送付、近隣医療機関へポスター掲示を依頼するなど、助成制度の効果的な周知を行うことができた。					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	3,014千円	8,849千円	27,001千円		

C. 放課後児童健全育成事業

(子ども育成課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
半田市放課後児童健全育成事業補助金（入所児童奨励費）により、半田市が委託する放課後児童クラブを利用する児童の保護者に対し、保育料を減免する場合、減免額を全額補助するもの。					
○事業の自己評価、成果等					
保護者の経済的負担の軽減を図るとともに、併せて、事業実施団体の運営の改善に寄与することができた。					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	278,782 千円	290,647 千円	304,545 千円		

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策I】 出産・子育てのしやすい環境の整備

②子どもを産み育てるサポート体制の充実

○主要な事業、取組

A. 子育て支援センター事業

(子ども育成課)

○事業の概要（目的、実施内容）

子育て支援センターにおける地域子育て支援拠点事業と乳幼児一時預かり事業の実施により、子育て・子育て支援の推進を図る

○事業の自己評価、成果等

プレイランドの利用制限の解除により、利用者数が5割増しとなり、親子交流の場所として資することができた。また、仕事やりフレッシュ等、利用の目的を制限しない乳幼児一時預かりを実施し、育児に対する保護者の負担軽減を図った。また年間347日の受け入れ、利用時間を7時30分から19時までとして働く親にも利用しやすい環境を提供した。

○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	27,014 千円	28,764 千円	36,275 千円		

○その他の事業、取組

B. 放課後子ども教室推進事業

(子ども育成課)

令和6年度は12校で開催。

○事業費 2023年度(R5決算額)	5,578 千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	----------	---------	-----

C. 妊産婦家庭サポート事業

(子育て相談課)

○事業費 2023年度(R5決算額)	55 千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	-------	---------	-----

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策I】 出産・子育てのしやすい環境の整備

③仕事と子育ての両立支援

○主要な事業、取組

A. 放課後児童健全育成事業

(子ども育成課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
保護者が就労等により昼間家庭にいない小学生に、放課後等の適切な遊びや生活の場を提供するため、放課後児童クラブ20か所に事業を委託することで、児童の健全な育成を図る。					
○事業の自己評価、成果等					
放課後や長期休業期間中の児童の居場所を確保し、健やかな成長に寄与するとともに、保護者の子育てと就労の両立支援を図ることができた。					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	278,782 千円	290,647 千円	304,545 千円		

B. 民間保育所運営事業

(幼児保育課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
子ども・子育て支援法の規定により民間保育所等に施設型給付費(委託費)、民間保育所運営費補助金を支給する。また、物価高騰等に伴い保護者の負担なく給食の質を維持するため、民間保育所に対し補助を実施する。					
○事業の自己評価、成果等					
待機児童数について年度当初は0人であったが、年度途中では27人生じた。子育て世代の女性の就業率が上昇傾向にあり、花園保育園の民営化により定員枠の拡大を図ったが、0歳児及び1歳児クラスの入所児童数が利用定員を上回り、年度途中に待機児童が発生した。引き続き、公立保育所の民営化を含め低年齢児の定員拡充に努める。また、国・県補助金である「保育対策総合支援事業費補助金（保育補助者雇上強化事業）」の活用や、市単独事業である「民間保育所運営費補助金（配置強化職員費）」の交付を行うことで、民間保育所等における保育士の業務負担軽減や離職防止に寄与した。また、令和4年度に引き続き、原油価格・物価高騰等に伴い給食材料費が高むことによる給食の質の低下を防ぐため、「保育所等給食費軽減対策補助金」の交付を行うことで、保護者の負担なく給食の質を維持することができた。					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	680,700 千円	845,182 千円	957,281 千円		

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策I】 出産・子育てのしやすい環境の整備

C. 地域型保育事業

(幼児保育課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
<p>子ども・子育て支援法の規定により地域型保育事業施設に地域型保育給付費等を支給し、半田市小規模保育事業所延長保育事業費補助金交付要綱に規定する事業の実施に要する経費に対し補助金を交付する。また、物価高騰等に伴い保護者の負担なく給食の質を維持するため、地域型保育事業所に対し補助を実施する。</p>					
○事業の自己評価、成果等					
<p>待機児童数について年度当初は0人であったが、年度途中では27人生じた。子育て世代の女性の就業率が上昇傾向であり、0歳児及び1歳児クラスの入所児童数が利用定員を上回り、結果として年度途中に待機児童が発生した。地域型保育事業については、年間を通じて入所率は高く、保育の受け皿として十分機能しているが、依然として待機児童解消には至っていないため、民間保育所の拡充とのバランスを鑑みつつ、状況に応じた施設数の増加を検討する必要がある。</p> <p>また、前年度に引き続き、原油価格・物価高騰等に伴い給食材料費が嵩むことによる給食の質の低下を防ぐため、「保育所等給食費軽減対策補助金」の交付を行うことで、保護者の負担なく給食の質を維持することに寄与した。</p>					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	156,799 千円	170,000 千円	240,383 千円		

D. 市立保育園管理運営事業

(幼児保育課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
<p>家庭で保育ができない保護者に代わり保育を行うことに加え、通園する児童の心身の育成を行う。</p> <p>また、物価高騰等に伴い保護者の負担なく給食の質を維持するため、賄材料費等の増額計上を行う。</p>					
○事業の自己評価、成果等					
<p>待機児童数について年度当初は0人であったが、年度途中では27人生じた。保育が必要な就学前児童に対し、施設の維持・管理等の環境整備に努め、円滑に保育・教育を実施することができた。しかし、年度途中において待機児童が発生しているため、公立保育園の民営化による低年齢児の定員数の拡充を図り、待機児童の解消に努めていく必要がある。</p> <p>また、令和4年度途中から導入したICTシステム「コドモン」及び紙おむつのサブスクリプションについて円滑に運用できるよう各園をサポートし、引き続き保護者及び保育士の負担軽減を図るとともに、保育サービスの拡充に努めた。</p> <p>さらに、前年度に引き続き、原油価格・物価高騰等に伴い給食材料費が嵩むことによる給食の質の低下を防ぐため、賄材料費等の増額を行うことで、保護者の負担なく給食の質を維持することができた。</p>					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	397,870 千円	340,639 千円	313,554 千円		

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる
【施策Ⅱ】 健やかな育ちと学びにより子どもの確かな成長を支援

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指 標	基準値	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
DT2（※）種混合予防接種の接種率 ※ジフテリア及び破傷風	85.0% (2018)	80.5% (2020)	81.9% (2021)	83.5% (2022)	74.2% (2023)		90.0%	C
目標値に対する達成率		基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿			
学校が楽しいと回答している児童・生徒の割合	88.9% (2018)	88.2% (2020)	88.7% (2021)	88.8% (2022)	88.4% (2023)		90.0%	C
目標値に対する達成率		基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿			
コミュニティ・スクールの活動回数 (1校あたりの平均回数/年)	-	31回	47回	56回	50回		50回	A
目標値に対する達成率		62.0%	94.0%	112.0%	100.0%			

KPIに対する達成状況評価 ※当該年度の達成状況、数値の変化要因等	DT2（※）種混合予防接種の接種率 ※ジフテリア及び破傷風 DT2種混合予防接種の接種率については、前年度より減少し、目標値に達しなかった。DT2種混合に代わる任意予防接種のDPT3種混合を選択する保護者が増えていることが要因の一つと考えるが、どちらも未接種の子どももいるため、より効果的な接種勧奨を行うことが課題である。
	学校が楽しいと回答している児童・生徒の割合 学校生活アンケートで「学校が楽しい」と回答した児童・生徒の割合は横ばいであった。昨年度に引き続き、児童生徒が楽しいとすることができる魅力的な授業づくり、学校運営等に努める。
	コミュニティ・スクールの活動回数 登下校の見守りや小学校低学年への読み聞かせといった常時の活動が、毎日又は毎月実施されている。引き続き児童生徒が地域の方々と顔を合わす機会の確保に努め、コミュニティ・スクールの推進に努める。

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策Ⅱ】 健やかな育ちと学びにより子どもの確かな成長を支援

①子どもの健康の維持・増進

○主要な事業、取組

A. 母子健康増進事業

(子育て相談課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
母子保健法に基づき、母子並びに乳幼児等の健康の確保及び増進を図ります。妊娠期から切れ目ない支援を目指す利用者支援事業を行い、地域で安心して子育てが行えるよう相談支援の充実を図ります。					
○事業の自己評価、成果等					
令和5年度から伴走型相談支援事業としてこれまで実施していた事業に加え、妊娠8か月アンケートと産後2週間頃に母子の状況を確認するすこやかベビー応援コールを開始し、安心して出産・子育てができるよう妊娠期から個々の状況に応じ支援した。					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	5,343 千円	4,466 千円	5,238千円		

○その他の事業、取組

B. 妊婦・産婦・乳幼児健康診査事業

(子育て相談課)

○事業費 2023年度(R5決算額)	95,332 千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	-----------	---------	-----

C. 予防接種事業

(子育て相談課)

○事業費 2023年度(R5決算額)	251,511千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	-----------	---------	-----

②地域とともにふるさと半田を大切に育てる子どもの育成

○主要な事業、取組

A. コミュニティスクール推進事業

(学校教育課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
地域と学校が互いにパートナーとして「連携・協働」を行い、地域と学校の協働体制を構築し、教育活動等の活性化を図る。					
○事業の自己評価、成果等					
登下校の見守りや小学校低学年への読み聞かせといった常時の活動が、毎日又は毎月実施されている状況であった。引き続き児童生徒が地域の方々と顔を合わす機会の確保に努め、コミュニティ・スクールの推進に努める。					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	6,280 千円	6,008 千円	7,107 千円		

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策Ⅱ】 健やかな育ちと学びにより子どもの確かな成長を支援

○その他の事業、取組

B. 新美南吉読書感想画コンクール

(図書館)

○事業費 2023年度(R5決算額)	32千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	------	---------	-----

C. 副読本、郷土読本「はんだ」の活用

(学校教育課)

○事業費 2023年度(R5決算額)	0円※	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	-----	---------	-----

※令和5年度は副読本等の改訂を行っていないため経費は発生していない。副読本等の活用自体は継続して実施している。

③キャリア教育の推進と知徳体のバランス豊かな子どもの育成

○主要な事業、取組

A. 学校生活支援事業

(学校教育課)

○事業の概要（目的、実施内容）				
学校生活で、特別な支援を必要とする児童生徒に適切に対応するため、会計年度任用職員を配置し、学校生活の安定を図る。				
○事業の自己評価、成果等				
個別支援の必要な児童生徒が増加しているが、学校生活支援員や特別支援学級補助員の適切な人員配置を行ったことで、支援充実につなげることができた。また、支援員等に対して、支援に必要な心構えや技術を学ぶ機会として、年2回の研修を実施し人材育成に努めた。				
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金
	107,895千円	105,988千円	162,704千円	対象外

B. いじめ・不登校対策事業

(学校教育課)

○事業の概要（目的、実施内容）				
いじめや不登校など児童生徒の問題行動に対して、学校でのカウンセリング等の機能充実を図り、児童生徒の心の安定や自立を援助し、学校復帰等を促すための事業を実施する。				
○事業の自己評価、成果等				
支援関係機関との連携・協力を緊密に行ったこと等により、支援を必要とする児童生徒の心の安定や課題の解決につなげることができた。				
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金
	45,976千円	47,952千円	69,900千円	対象外

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策Ⅱ】 健やかな育ちと学びにより子どもの確かな成長を支援

C. 小学校情報機器整備事業 / 中学校情報機器整備事業 (学校教育課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
国のGIGAスクール構想に則り、1人1台端末の整備等教育ICT環境の整備を行う。					
○事業の自己評価、成果等					
国のGIGAスクール構想に基づき、小中学校における情報機器や通信ネットワーク環境の整備・運用、学習支援ソフトの配備等を適切に進めることができた。また、タブレット端末等のさらなる有効活用等について未来創造協議会等で議論を進めたことにより、より充実した学習環境を構築することができた。					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	256,975 千円	256,811 千円	300,314 千円		

○その他の事業、取組

D. キャリアスクールプロジェクト推進事業 (学校教育課)

(事業の概要等) 小・中学校の発達段階に応じた系統的なキャリア教育を進めていく事業の一つとして位置付け、小学校で培ったキャリア形成と職場体験等の体験活動を核とした3年間のキャリア教育をつなぎ、それまでの学習を振り返ることを通して、自己のキャリア形成を図る。					
○事業費	2023年度(R5決算額)			○デジ田交付金	対象外
	270 千円				

E. キャリア教育推進事業 (学校教育課)

(事業の概要等) 「元気いっぱい・笑顔いっぱい・優しさいっぱい」な子どもたちを育てる教育を推進するため、「幼保小中一貫教育HANDAプラン」に基づいた事業を実施する。					
○事業費	2023年度(R5決算額)			○デジ田交付金	対象外
	0 円※				

※令和5年度は経費は発生していないが、事業自体は実施している。

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策Ⅲ】若い世代の定住を促進

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指標	基準値 (2019)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
これからも半田市に住み続けたいと思う市民の割合 (39歳以下)	52.8%	57.4%	52.3%	43.2%	34.5%		70.0%	C
目標値に対する達成率		26.7%	基準値未満	基準値未満	基準値未満			
半田市に好意的なイメージを持っている転入者の割合	39.0%	45.0%	32.1%	39.4%	45.7%		60.0%	B
目標値に対する達成率		28.6%	基準値未満	1.9%	31.9%			

KPIに対する 達成状況評価 ※当該年度の達成状況、数値の変化要因等	これからも半田市に住み続けたいと思う市民の割合 「はんだ市報」での高校生ライターによる魅力発信、子育て中の親子向けに観光スポットや公園、子育て支援施設等を巡るツアーの開催、市内の産業・観光資源を知ってもらうためのツアー企画等、地元への愛着醸成に繋がる取組を実施したものの、本指標の実績値は低下している。 低下の要因として、本指標のアンケートに対して「どちらでもない」との回答が増加傾向にあり、半田市への興味・関心が低下していると考えられる。これをふまえ、テレビやラジオなどマスメディアを通じたPR活動や情報発信を強化することにより、本市の露出度を高め、認知度・イメージの向上を図っていく。
	半田市に好意的なイメージを持っている転入者の割合 転入者が見込まれる西三河地区を対象とした情報誌へのPR記事の掲載や地域資源を紹介する「魅力発見ツアー」の実施、市公式インスタグラムにより半田の魅力を発信したことが、本市の認知度及びイメージ向上につながった。

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策Ⅲ】若い世代の定住を促進

①居住しやすい環境の整備

○主要な事業、取組

A. 半田乙川中部土地区画整理事業

(市街地整備課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
乙川中部地区の土地区画整理を実施することにより、道路・水路・公園など公共施設の土地基盤を整備するとともに、土地利用の再編成を行い、良好な住環境の形成を図る。地区内には、本市の道路網の骨格となる都市計画道路3・3・21環状線が計画されており、早急な整備が望まれているため、あわせて整備を進める。					
○事業の自己評価、成果等					
懸案であった残り1件の物件移転補償契約を締結することができ、事業完了の目途を立てることができた。 環状線整備工事では、年度当初の発注が不調となったため、工事を分割発注するなど進捗を図ったが、予定していた令和5年度中の完了は達成できなかった。					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	1,346,024 千円	854,660 千円	1,460,191 千円		

B. J R半田駅前土地区画整理事業

(市街地整備課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
J R半田駅前地区において、J R武豊線の高架にあわせ土地区画整理事業を実施し、面整備と幹線道路等の整備による一体的な市街地を形成することで、住環境の向上と中心市街地の活性化に繋げる。					
○事業の自己評価、成果等					
建物移転について、地権者と交渉を重ねることで13件の契約を締結することができた。また、移転が完了した部分から速やかに区画整理工事を実施し、南側区域ほぼ全域の使用収益を開始することができた。					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	1,121,519 千円	1,392,293 千円	1,135,643 千円		

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策Ⅲ】若い世代の定住を促進

C. 小学校区コミュニティ活動支援事業

（市民協働課）

○事業の概要（目的、実施内容）					
自治区を始めとした地域組織が、複雑・多様化する地域課題を解決し、持続可能かつ効率的な運営をしていけるよう、小学校区単位での活動を目的とした協議組織の立ち上げ支援を通して、小学校区コミュニティ組織の構築を目指すもの。					
○事業の自己評価、成果等					
成岩小学校区において、成岩公民館の建て替えに合わせた「地域活動の拠点」となる施設の将来像を描きながら協議する場として「地域のみらいミーティング」を開催し、人口減少社会に必要な地域づくりの在り方や小学校区単位のコミュニティの必要性について地域の中で意識醸成・共有することができた。					
○事業費	2022年度 （R4決算額）	2023年度 （R5決算額）	2024年度 （R6予算額）	○デジ田 交付金	対象 （地方創生推 進）
	319 千円	812 千円	1,948 千円		

D. はんだまちづくりひろば運営事業

（市民協働課市民交流センター）

○事業の概要（目的、実施内容）					
協働のまちづくりを推進するため、市民活動・ボランティア活動を行う団体を支援する。相談事業、各種講座の開催、活動・交流の場の提供、情報収集・提供等、団体PRや資金調達支援を行う。					
○事業の自己評価、成果等					
カプセルトイの貸出による市民活動支援を行い、イベント等での利活用で団体活動の認知度向上や団体活動の資金源とすることができた。スキルのある団体が他団体向けに行う協働タイプのSNS講座や動画作成講座などのメニューを新たに提供し団体の情報発信力向上につなげるとともに、団体間のネットワーク作りの場とすることができた。					
○事業費	2022年度 （R4決算額）	2023年度 （R5決算額）	2024年度 （R6予算額）	○デジ田 交付金	対象 （地方創生推 進）
	192千円	484千円	134千円		

E. 市民活動助成事業

（市民協働課市民交流センター）

○事業の概要（目的、実施内容）					
市内で活動する市民活動団体が行う公益的な事業に対し、助成金を交付することにより、団体が行う事業を資金面で支援し、団体の自発的・自立的活動の促進や継続的な事業実施を目指すもの。					
○事業の自己評価、成果等					
新規登録団体を中心に積極的に助成金制度のPRを行い、はじめの一步部門（5団体）を中心に8団体へ交付を行った。令和3年度に創設したチャレンジ部門において、上限額の引き上げを実施し、1団体へ交付、第7次半田市総合計画の「チャレンジ2030」に沿った協働事業の実施により施策推進に貢献した。					
○事業費	2022年度 （R4決算額）	2023年度 （R5決算額）	2024年度 （R6予算額）	○デジ田 交付金	対象 （地方創生推 進）
	2,770 千円	2,598 千円	5,084 千円		

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 3 若い世代に選ばれる「まち」をつくる

【施策Ⅲ】若い世代の定住を促進

○その他の事業、取組

F. コミュニティ環境整備助成事業

(市民協働課)

○事業費 2023年度(R5決算額)	4,683 千円	○デジ田交付金	対象 (地方創生推進)
-----------------------	----------	---------	----------------

G. 地域環境整備事業

(市民協働課)

○事業費 2023年度(R5決算額)	998 千円	○デジ田交付金	対象 (地方創生推進)
-----------------------	--------	---------	----------------

H. 公園管理事業

(都市計画課)

○事業費 2023年度(R5決算額)	10,190 千円	○デジ田交付金	対象 (地方創生推進)
-----------------------	-----------	---------	----------------

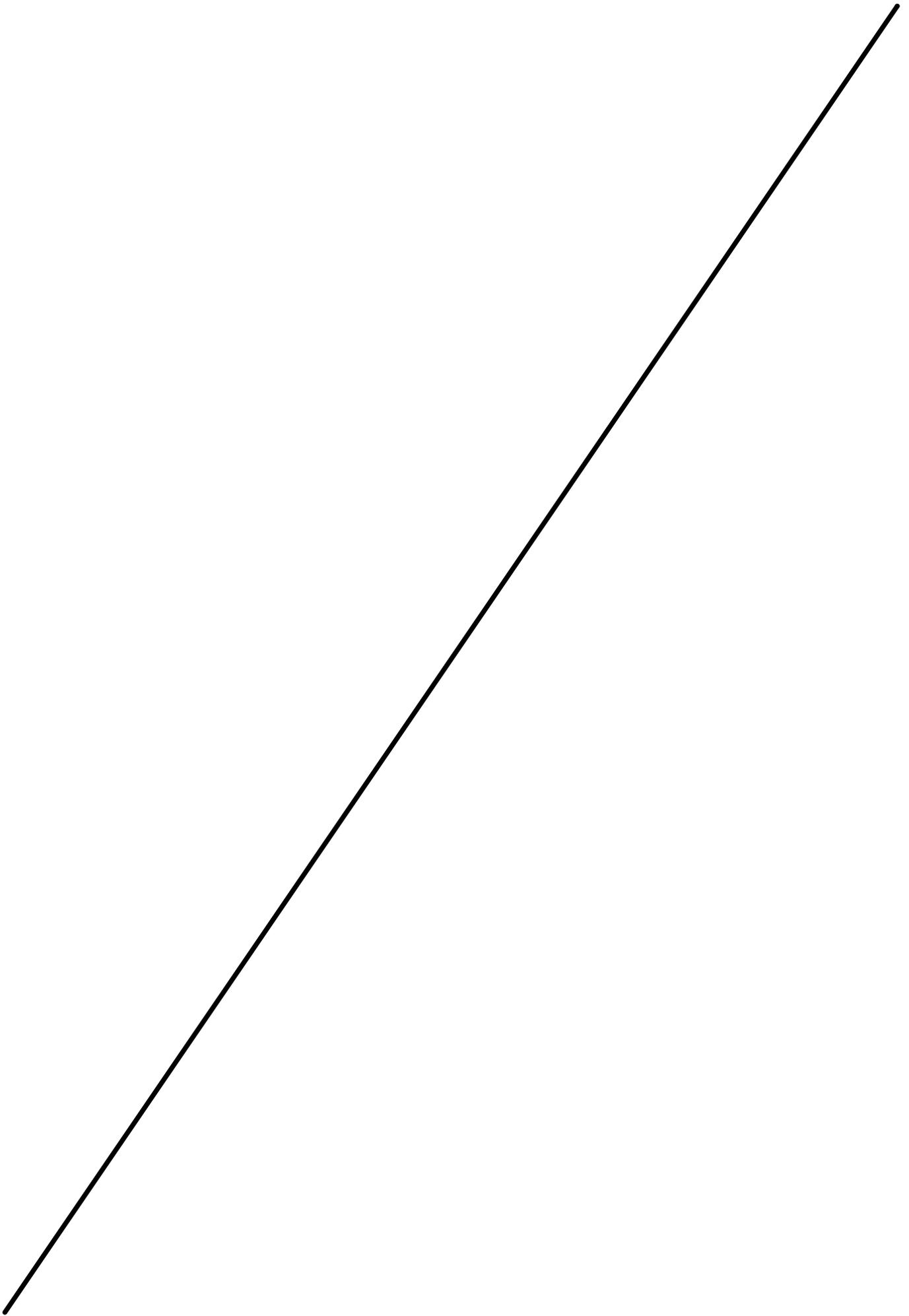
②まちのイメージの向上

○主要な事業、取組

A. シティプロモーション推進事業

(企画課)

○事業の概要（目的、実施内容）				
本市の都市イメージや認知度の向上を図るとともに、市民のまちへの愛着や誇りの醸成を図ることにより定住人口の獲得を目指す。 情報発信事業（地域情報誌への掲載・インスタグラム広告）、若者世代（高校生・大学生）と連携した半田の魅力発信、まちへの愛着を醸成するための事業（半田の魅力発見ツアーなど）を実施した。				
○事業の自己評価、成果等				
各種広報媒体を活用した情報発信、若年世代と連携した情報発信を通じて、本市のPRと市民の愛着醸成につながる取組ができた。また、子育て中の親子向けに開催した観光スポットや公園、子育て支援施設等を巡るツアーでは、半田で子育てするイメージを具体的に持ってもらうことができた。				
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金
	4,459 千円	4,758 千円	8,520 千円	対象 (地方創生推 進)



令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（基本目標）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

基本的方向

- 畜産農家と住民との相互理解を深める中、臭気への環境対策を進め、良好な生活環境を確保します。
- 災害への備えを充実するなど、安心して安全な生活環境づくりを推進します。
- 市民がまちの歴史や文化にふれる機会を増やし、ふるさとに誇りや愛着の持てるまちづくりを進めます。
- 市民の日常的な健康づくりを促進するとともに、医療体制の充実に取り組みます。
- 国籍・民族等の異なる人々が互いの文化的な違いを認め、対等な関係のもとで共に生きていく社会の実現に取り組みます。

【基本目標における数値目標の実施状況】

指 標	基準値 (2019)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2025)	達成度
これからも半田市に住み続けたいと思う市民の割合	57.8% (2020調査)	68.3% (2021調査)	72.5% (2022調査)	62.6% (2023調査)	58.5% (2024調査)		75.0%	B
目標値に対する達成率		61.0%	85.5%	27.9%	4.1%			

市内全体評価

※取組に対する全体評価、基本目標における数値目標に
対する達成状況、今後の課題等

「これからも半田市に住み続けたいと思う市民の割合」の令和5年度実績値は、基準値を上回ったものの低下傾向にある。年代別で見ると、39歳以下における割合は34.5%（基本目標3_施策ⅢのKPI）であり、同様に低下していることから、特に若い世代へのアプローチが重要である。前回の有識者会議での意見・提言もふまえて、市民アンケートの調査結果を分析したところ、本指標と相関がみられたのは、「①半田市で子育てしてよかった・したい」及び「②半田市に愛着を感じる」の2つの指標であった。（全世代・若い世代で共通した傾向で、中程度の相関が認められた。）このことから、特に若い世代に向けては①子育てに関する満足度向上、全世代に向けては②地元への愛着醸成が今後も進めるべき方向性であると考えられる。

若い世代に向けた①子育てに関する満足度向上の取組としては、子育て世帯をターゲットとして、「はたらく親を応援するまち」という都市イメージの構築を目指した取組を展開していく。働く親の支援につながる効果的な取組の立案・実施と併せて、一連の取組を周知し、認知されるためのプロモーション活動の推進が今後の課題である。施策展開と併せて広報活動を実施し、半田市が「はたらく親を応援するまち」として市内外に認知される状態を目指していく。

また、全世代に向けた②地元への愛着醸成について、生活環境の快適性やまちの安全性、医療体制の充実度や文化的側面など、様々な要因を総合したものが地元への愛着につながると考えられるため、多種多様な取組を幅広く進めながら、それらの取組をインナープロモーションとして浸透させていく必要がある。

有識者会議全体評価（意見・提言）

有識者会議全体評価

A



委員の内訳
 AA …0人
 A …5人
 B …4人
 C …0人

第2期総合戦略
各年度の評価

・ R3年度：A
 ・ R4年度：A
 ・ R5年度：A

○良いところ・伸ばしていくべき部分

【防災】

楽しく学ぶ手法を取り入れた防災学習や食糧の備蓄等、安心・安全なまちづくりに向けて、防災面での取組を進められている。ただし、重要業績指標の「災害に対する備えができていると思う市民の割合」が36.5%と低いため、より効果的な啓発活動を行えるとよい。

【畜産臭気】

快適な居住環境という点において、畜産臭気の影響は大きい。ある程度の予算を投じて解決すべき課題であると思われるため、より効果的な取組について検討を進めるべきである。

【文化・芸術振興】

市内すべての小学校において、小学3年生を対象に博物館、新美南吉記念館等を巡る社会科見学を行っており、子どもの頃に多様な文化芸術に触れられる機会の創出が図られている。

【多文化共生】

多文化共生につながる様々な取組を行っている。外国籍市民でも暮らしやすいまちづくりに向けて、半田市の文化と外国の文化が交流できる企画や、コミュニティ単位での外国籍市民との関係づくりを進めていけるとよい。

○良くないところ・改善が必要な部分

【防犯】

侵入盗の発生件数が増加傾向にある。防犯灯の設置と併せて、防犯カメラの設置も進める必要がある。

【博物館における山車展示】

市外からの博物館への来館者数を増やすために、他市町の山車を博物館に展示する取組が行えるとよい。

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる
【施策 I】 畜産への理解促進と良好な生活環境の確保

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指標	基準値 (2019)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
全畜産施設の敷地境界上における臭気指数15以下の割合	92.6%	94.5%	96.3%	97.9%	92.9%		100.0%	B
目標値に対する達成率		25.7%	50.0%	71.6%	4.1%			
はんだふれあい産業まつり入場者数 ※半田運動公園会場のみ	22,000人	0人	0人	15,000人	0人(※)		23,000人	C
目標値に対する達成率		基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿			

※はんだ山車まつり開催年度のため、JFE会場のみ

KPIに対する 達成状況評価 ※当該年度の達成状況、数値の変化要因等	全畜産施設の敷地境界上における臭気指数15以下の割合 令和5年度は計3回の臭気測定を行ったが、第1回目は市内全畜産施設（47施設）に対して、2回目と3回目については、過去に高い臭気指数を計測した14施設を対象を絞り、延べ75件の測定を実施した。 その結果、第1回目は43件、第2回目は12件、第3回目は10件について、市が注意喚起の目安とする臭気指数15以下の基準を満たしていた。第2回目及び第3回目は全畜産施設に対して測定を行っていないが、測定を行っていない施設は過去の測定結果から基準を満たしているとみなすと、全3回のトータルで92.9%（131件/141件）が基準を満たしていると評価できる。
	はんだふれあい産業まつり入場者数 はんだ山車まつり開催年度のため、JFE会場のみでの開催となった。入場者は20,000人であり、半田市酪農組合による牛乳の試飲や乳しぼり模擬体験の実施や、知多牛、鶏卵、知多鶏そば焼そばの販売等を通じて、本市の畜産をPRすることができた。

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策 I】 畜産への理解促進と良好な生活環境の確保

① 畜産ふん尿の臭気対策の推進

○ 主要な事業、取組

A. 畜産臭気監視事業

(環境課)

○ 事業の概要（目的、実施内容）

良好な住環境を確保するため、畜産施設から発生する臭気が基準に超過していないか監視する。また、大同大学との共同研究で得た知見を基に、産業課と連携し、本市の長年の課題である畜産臭気問題の解決を図る。
大同大学との共同研究で開発した簡易臭気センサーを活用し、継続して市内の畜産施設における臭気測定を実施し、畜産臭気の発生状況を監視する。また、臭気低減の参考としていただくため、測定結果を全畜産農家に通知する。

○ 事業の自己評価、成果等

臭気指数15を超えた畜産施設の割合は前年度と比較して少し下がったものの、産業課との連携による継続的な臭気測定と畜産農家への測定結果の通知、強い臭気の発生している特定の施設に対する指導・助言等により、ほとんどの畜産施設において目標指数である臭気指数15以下が達成されている。

○ 事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○ デジ田 交付金	対象外
	803 千円	581 千円	685 千円		

B. 畜産環境対策推進事業

(産業課)

○ 事業の概要（目的、実施内容）

市内では、町の近くで多くの頭数を飼う集約的郊外酪農を行っている。牛の飼育頭数は約11,500頭であり、ふん尿による臭気が問題として取り上げられている。畜産臭気軽減のために環境対策推進の各種補助金を交付することで、畜産環境対策の推進に努める。

○ 事業の自己評価、成果等

消臭等資機材の使用や耕畜連携における堆肥の搬出をすることで、畜産臭気の軽減が図れている。しかし、問題を完全に解決することが難しいため、今後も臭気対策を継続して行っていく必要がある。

○ 事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○ デジ田 交付金	対象外
	3,428千円	3,099千円	4,000千円		

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる
【施策 I】 畜産への理解促進と良好な生活環境の確保

②畜産農業に対する理解の向上

○主要な事業、取組

A. はんだふれあい産業まつり開催事業

(産業課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
<p>地元商業、工業、農業の各分野から幅広い団体に対し、参加を呼びかけるとともに、魅力ある企画を取り込みながら、現地の産業活動をPRすることで、地産地消の促進及び産業振興を応援する。令和5年度は、はんだ山車まつり開催年度のため、JFE会場のみで開催した。</p>					
○事業の自己評価、成果等					
<p>はんだ山車まつり開催年度のため、JFE会場のみでの開催ではあったが、ステージイベントでのJFEスチール（株）知多製造所開設80周年の記念行事や、工場見学・体験コーナー等が行われ、来場者数の目標値を達成することができた。また、幅広い年齢層の来場があったため、地域産業を支える事業者や取組を広くPRすることができた。</p>					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	5,000 千円	1,000 千円	5,000 千円		

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる
【施策Ⅱ】安心・安全なまちづくりの推進

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指 標	基準値	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
災害に対する備えができていると思う市民の割合	21.1% (2019)	38.8% (2020)	38.9% (2021)	39.4% (2022)	36.5% (2023)		50.0% (2025)	B
目標値に対する達成率		61.2%	61.6%	63.3%	53.3%			
半田市内の空家等戸数	736戸 (2018)	601戸 (2020)	591戸 (2021)	574戸 (2022)	562戸 (2023)		736戸	A
目標値に対する達成度		▲135戸	▲145戸	▲162戸	▲174戸			
半田市内の刑法犯の発生 件数（件／年）	695件 (2018)	472件 (2020)	431件 (2021)	470件 (2022)	616件 (2023)		600件	A
目標値に対する達成率		234.7%	277.9%	236.8%	83.2%			

KPIに対する 達成状況評価 ※当該年度の達成状況、数値の変化要因等	災害に対する備えができていると思う市民の割合 防災訓練等での市民啓発や水災害ハザードマップを使用したマイタイムライン作成講座を継続するとともに、感震ブレーカー以外の資機材も補助対象とし、市民全世帯に対象を広げた地震対策資機材等整備補助金を創設した。新聞折込や店舗へのピラ設置等して啓発を行ったが、本指標の実績値は前年度から微減した。令和6年能登半島地震の発生後における結果であり、被災地報道等からこれまでの備えを見直したことによる結果の可能性も否定できないため、講座や訓練等にて被災地で実際に有効だった備えを具体的に紹介し、普及に寄与することで災害に対する備えができていると思う市民の割合増加に努める。
	半田市内の空家等戸数 基準値である736件の空き家の内、令和5年度中に建設リサイクル法の届出により解体が確認できたものが、12件あったため、前回調査で判定した574件から除し562件とした。しかしながら、新たに発生した空き家や利活用など解体以外の方法によって空き家が解消した実数は補足できていない。空き家の情報を一元管理できるよう、データベースの構築を目指す。
	半田市内の刑法犯の発生件数（件／年） 愛知県全体で刑法犯の発生件数は46,832件（前年比+5,584件）と増加しており、当市も同様に616件（前年比+146件）と増加した。特に自転車盗の件数が多く、盗難車の多くが無施錠であるため、施錠の習慣化に向けた啓発運動を強化するため、警察と協働し盗難防止札を試験的に約6か月間放置自転車業務に取り入れた。 また、県下で増加傾向にある侵入盗は、当市でも28件（前年比+8件）と増加しており、犯罪の発生頻度が高い夜間の環境良化を進めるため、今後も防犯灯の設置を進めていく。

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅱ】安心・安全なまちづくりの推進

①災害に備えた対策の推進

○主要な事業、取組

A. 地震対策資機材等整備促進事業

(防災安全課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
地震災害発生時に家具の転倒や火災等の二次災害を防止するため、地震対策資機材等の購入費及び取付費を補助し、災害発生時の市民の生命や財産の安全確保に寄与する。					
○事業の自己評価、成果等					
補助対象を市内在住の世帯主全員に拡大し、新たに作成したチラシの新聞折込（46,000世帯）や各種訓練・イベント時での配布、商業施設と連携した啓発活動（総合防災訓練での実演、商業施設での起震車体験）等、広報活動に尽力したが、申請件数は伸び悩んだ。					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	0 千円※	1,210 千円	0 千円※		

※令和5年度のみ事業であり、令和4・6年度は実施していない。

○その他の事業、取組

B. 災害対策資機材等強化整備事業

(防災安全課)

○事業費 2023年度(R5決算額)	2,634 千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	----------	---------	-----

C. 災害対策資機材更新事業

(防災安全課)

○事業費 2023年度(R5決算額)	10,705 千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	-----------	---------	-----

②地域防災活動の推進

○主要な事業、取組

A. 災害対策事業

(防災安全課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
市民の財産及び生命を守るため、地域の防災力を強化し、災害による被害の軽減を図る。防災訓練や防災キャンプ等での啓発を通じ、市民一人一人の防災意識の向上を図る。また、市内の先進的な避難所運営の取組事例を普及し、市全体の防災力の向上に繋げる。					
○事業の自己評価、成果等					
総合防災訓練を通じて住民主体の避難所開設訓練を実施するとともに、地元住民による避難所運営委員会を発足したことで、主に会場となった成岩中学校校区の地域防災力向上を図ることができた。また、乙川小学校で実施の防災キャンプでは、避難所宿泊だけでなく防災学習にも注力し、楽しく学ぶ手法を取り入れたことで参加者の防災意識向上の促進に寄与した。その他、各地区で実施の自主防災訓練に対しても、可能な限り職員を派遣する等市全体の防災力向上に向けて取り組むことができた。					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	10,606千円	9,579 千円	11,246 千円		

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅱ】安心・安全なまちづくりの推進

③空き家対策の推進

○主要な事業、取組

A. 老朽化建築物取壊促進・空家対策事業

(建築課)

○事業の概要（目的、実施内容）

大地震時に倒壊し、二次災害を引き起こす可能性の高い老朽化建築物やブロック塀の取壊・撤去補助の実施及び空家の適正管理を推進することで減災化を図る。

○事業の自己評価、成果等

老朽化建築物やブロック塀については、市報等により補助制度が浸透しつつあり老朽化建築物取壊補助は56件、ブロック塀等撤去補助は23件の補助を行った。また、特定空家等の代執行による取り壊しを1件実施した。

○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	10,813 千円	18,213 千円	17,362 千円		

④防犯対策の充実

○主要な事業、取組

A. 防犯活動事業

(防災安全課)

○事業の概要（目的、実施内容）

「半田市安全なまちづくり条例」に基づき、地域団体や警察、学校、企業等と連携した防犯啓発活動や、市民が気軽に参加することのできる防犯活動への参加促進に努め、「安心・安全なまちづくり」の推進を図る。

○事業の自己評価、成果等

警察や他団体と協働し高校生と闇バイト加担防止の動画作成・放映や護身術の講義、防犯少年団と立哨活動や青パト巡回等を行った。また、昨年の引き続き防犯教室やキャンペーンも実施し、市民の防犯意識を高めることができた。

○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	1,453 千円	1,455 千円	8,933 千円		

○その他の事業、取組

B. 防犯灯整備事業

(防災安全課)

○事業費 2023年度(R5決算額)	26,605 千円	○デジ田交付金	対象外

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる
【施策Ⅲ】文化の継承と創造の推進

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指標	基準値	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
郷土の文化に関心を持っている市民の割合	51.1% (2019調査)	49.5% (2021調査)	52.2% (2022調査)	52.2% (2023調査)	44.2% (2024調査)		65.0% (2025調査)	C
目標値に対する達成率		基準値未満	7.9%	7.9%	基準値未満			
文化施設（雁宿ホール・博物館・新美南吉記念館）利用者数（人／年）	198,418人 (2018)	83,175人 (2020)	143,715人 (2021)	180,990人 (2022)	194,865人 (2023)		220,000人 (2024)	C
目標値に対する達成率		基準値未満	基準値未満	基準値未満	基準値未満			

KPIに対する達成状況評価 ※当該年度の達成状況、数値の変化要因等	郷土の文化に関心を持っている市民の割合 博物館において、企画展や館蔵品展、体験講座等を開催し、郷土の文化の魅力を発信するとともに地域に対する愛着と誇りの醸成を図った。 新美南吉記念館においては、令和5年1月から令和6年3月までストップモーションアニメーション作品「ごん」のDVDを市内の幼稚園、保育園、小学校、企業等に貸出し、期間中に延べ2,295人が鑑賞した。令和6年3月に市民eモニター調査を行ったところ、「新美南吉を半田市出身の作家であることを誇りに思うか」の項目について、89%の市民が誇りに思うとの結果だった。
	文化施設（雁宿ホール・博物館・新美南吉記念館）利用者数（人／年） 【雁宿ホール（大ホール）：52,657人（4年度：48,929人）】 令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の分類が2類から5類に変更され、文化芸術や生涯学習の活動がさらに回復する中、本市主催・共催による若い世代や親子向けの音楽コンサートや観劇会等を開催し、利用者の増加を図ることができた。また、高圧コンデンサ及び直列リアクトル（高圧受電調整装置）更新や空調設備の修繕等を実施することで、より安全で快適な利用環境を整備することができた。今後は、大規模修繕を見据えながら、安全に関わることなど、緊急を要する修繕を中心に、計画的に利用環境を整備するとともに、魅力的なイベントの開催等により利用者の増加を図る。
	【博物館：88,865人（4年度：87,966人）】 新美南吉生誕110年記念展「童話に見る昔の道具」、企画展「歴史と伝統 半田の山車祭り」を始め、郷土の自然や歴史、文化を伝える展示を実施した。また、「化石を発掘しよう」などの体験講座や比較的簡単な古文書を読み解く初心者向けの「やさしい古文書講座」等を実施し、年間利用者数も、コロナ禍前の平成30年度（95,961人）の93%まで回復することができた。今後も、魅力的な企画展や講座などを実施し、利用者の増加を図る。

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅲ】文化の継承と創造の推進

<p>K P I に対する 達成状況評価</p> <p>※当該年度の達成状況、数値の変化要因等</p>	<p>【新美南吉記念館：53,343人（4年度：44,095人）】</p> <p>年間入館者数は、令和4年度の44,095人に対し、令和5年度は対前年度比121%の53,343人となった。ただし、令和4年度は、展示室リニューアル工事に伴い、約1か月半臨時休館したため、1日平均にすると令和4年度は170人、令和5年度は178人となる。</p> <p>各月で比較すると、令和4年度は、リニューアル直後だった1月と令和5年は蛸祭りが中止となった6月を除いては、すべての月で前年度より増加している。</p> <p>要因としては、生誕110年事業によるマスメディアへの露出とリニューアル効果の継続があり、新型コロナウイルスの5類感染症への移行による人出の増加と合わせて、堅調な増加に繋がったといえる。</p> <p>なお、生誕110年記念行事に参加する度に図柄の違う缶バッジがもらえる再来館促進事業には、延べ1,490人が参加している。</p>
---	--

①文化の振興

○主要な事業、取組

A. 文化芸術普及推進事業

(生涯学習課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
<p>市民が文化芸術に対する興味を持つきっかけをつくったり、親しみをより深めてもらったりすることを目的に、まちなかや身近な場所で文化や芸術に触れ体験や鑑賞ができる事業を実施する。また、そういった文化芸術に関する情報を確実に届ける仕組みを構築する。まちなかでアート、半田市美術展、はんだアールブリュット展、親子向け観劇会等各種公演、文化活動全国大会等出場激励金支給、半田市文化協会事業費補助等を実施した。</p>					
○事業の自己評価、成果等					
<p>令和5年度は、半田市文化芸術推進計画の基本目標「子どもの頃に多様な文化芸術に触れられるまち」づくりを進めることを目的に、親子で参加できる「親子向け観劇会」を新たに実施するなど鑑賞型の公演数を増やした。加えて、まちなかでアートを含めた各イベントにおいて体験型ワークショップの要素を積極的に取り入れると同時に、生涯学習課独自のSNSを立ち上げ、対象となる層に情報が行き届くよう、イベント情報等の発信を積極的に行った。</p>					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象 (地方創生推 進)
	4,871 千円	4,646 千円	5,516 千円		

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅲ】文化の継承と創造の推進

B. 音楽のあるまちづくり事業

（生涯学習課）

○事業の概要（目的、実施内容）

令和2年8月26日付で公益社団法人セントラル愛知交響楽団と締結した「半田市音楽文化振興に関する協定」に基づく事業を始め、音楽のあるまちづくりを推進するための各種音楽関連事業を実施する。
セントラル愛知との協定事業（公演事業、小・中・幼・保等でのアウトリーチ・ワークショップ等）の他、未就学児を含めた子ども連れで参加可能な企画、ワークショップ等の体験企画を取り入れたイベント等を実施した。

○事業の自己評価、成果等

令和5年度は、半田市文化芸術推進計画の基本目標「子どもの頃に多様な文化芸術に触れられるまち」づくりを特に意識し、これまでの固定ファンだけでなく、未就学児も含めた親子で参加できるイベントを数多く企画・実施した。生涯学習課独自のSNSを立ち上げるなどイベント情報等の発信にも力を入れ、対象となる層に情報が行き届くような工夫も積極的に行った。結果としてこれまで実施してきた事業への参加が難しかった未就学児やその保護者・家族など新たな層の掘り起こしを図ることができた。

○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	12,083 千円	11,047 千円	11,094 千円		

○その他の事業、取組

C. 生涯学習推進事業

（生涯学習課）

○事業の概要等

リカレント教育の推進のため、日本福祉大学との共催により、半田市にゆかりのある直木賞作家 澤田瞳子 氏による講演会「わたしと半田市」を開催し、学びのきっかけづくりとともに郷土愛の醸成を図ることができた。

○事業費 2023年度(R5決算額)	740 千円	○デジ田交付金	対象 (地方創生推進)
-----------------------	--------	---------	----------------

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅲ】文化の継承と創造の推進

②文化財の保存継承と活用

○主要な事業、取組

A. 文化財等公開活用事業

(博物館)

○事業の概要（目的、実施内容）

半田が誇る文化財や山車文化の情報発信、文化財所有者等と協働した展示や講座などを行う。
令和5年度は、博物館での山車展示やお囃子の披露のほか、文化財解説板の製作や映像機器を使用して未公開資料などを公開した。

○事業の自己評価、成果等

阿久比の大山車と調整し、「第9回はんだ山車まつり」開催期間中に博物館に来館された人にも半田の山車と同じ知多型の山車を見ていただけた。また、データ化した古文書などの未公開資料も公開することができた。

○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	-	3,428 千円	3,108 千円		

B. 旧中埜家住宅整備事業

(博物館)

○事業の概要（目的、実施内容）

重要文化財旧中埜家住宅の後世への継承という大きな目的を達成するため、「保存」及びさらなる「活用」に必要な整備や修理を行う。
令和5年度は、棟札の複製制作と洋風家具の購入を行った。

○事業の自己評価、成果等

重文附指定となっている棟札及び設計図の画像データ化、棟札の複製制作を行った。これにより、貴重な原資料をできる限り良い状態で後世へ継承することができるようになった。また、ふるさと納税を活用し、客室に洋風家具を整備した。来場者の想像を助ける展示となるとともに、フォトスポット・体感展示として多くの来場者から喜ばれている。

○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	490 千円	1,517 千円	4,260 千円		

C. 企画展開催事業【博物館】

(博物館)

○事業の概要（目的、実施内容）

常設展示の内容を補完する展示事業として、テーマや期間を設けた企画展・館蔵品展等を開催する。企画展では主に他館等から貴重な資料を借用し、館蔵品展では主に当館で収蔵している美術品や一般資料などを展示する。

○事業の自己評価、成果等

「第9回はんだ山車まつり」にあわせて開催した企画展「歴史と伝統 半田の山車祭り」では、市指定文化財等の貴重な資料を借用して半田の山車文化を紹介したほか、収蔵庫に保管されていた由緒不明の山車関係資料について、詳細を明らかにすることができた。また、企画展「童話に見る昔の道具」では、昔の道具を使った体験イベント等を行った。館蔵品展「全国津々浦々！絵葉書展」では、展示にあわせて約5,000枚の絵葉書を整理し、デジタルデータ化することができた。

○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	1,757 千円	1,983千円	1,993千円		

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる
【施策Ⅲ】文化の継承と創造の推進

D. 企画展開催事業【新美南吉記念館】

(新美南吉記念館)

○事業の概要（目的、実施内容）					
南吉の魅力発信のために、時宜的な話題を捉え、南吉とその文学をテーマに企画展・特別展を開催する。令和5年度の特別展は、長野ヒデ子による南吉の新作絵本を中心とした原画展を行う。また、童話「牛をつないだ樁の木」の掘り下げや、知多半島の自然を撮り続ける相地透氏の写真と南吉を関連付けるなど、多様な切り口で企画展を行う。					
○事業の自己評価、成果等					
特別展1日あたりの観覧者数は、コロナ禍で減ったものが順調に戻りつつあるが（平成31年度は282人/日、令和5年度は250人/日）、コロナ禍前に届いていない。観覧者の増減については、展示内容以外の外部要因として、秋の彼岸花の開花状況が影響していると思われる。観光のついでではなく、目的となるような展示作成が求められる。					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	3,085千円	2,976千円	3,314千円		

E. 新美南吉生誕110年記念行事事業

(新美南吉記念館)

○事業の概要（目的、実施内容）					
令和5年の新美南吉生誕110年を記念して、各種事業を展開する。 ・生誕祭式典、「ごんぎつね」朗読リレー、童話賞審査員作家による対談、長野ヒデ子絵本原画展、南吉童話ワークショップ、みんなの南吉展、再来館促進事業、PR用ノベルティ、街頭サインなど					
○事業の自己評価、成果等					
誕生日当日にアイプラザ半田で行った記念行事は、チケットを完売し、509人が観覧した。年間を通じた記念事業は、新美南吉記念館主催事業の他、庁内他課が実施したもの、民間団体と共催したもの、市民事業募集に応募されたものなど多岐にわたった。PRサポーター募集、名鉄電車吊広告など民間事業者とタイアップしたPRも積極的に行い、生誕110年をきっかけに新美南吉の知名度を向上させ、市民の南吉に対する関心を高めることができた。					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	13,619千円	3,133千円	-		

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる
【施策IV】健康づくりの推進と医療体制の充実

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指 標	基準値	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
メタボリックシンドローム該当者の割合	25.3% (2018)	24.5% (2019)	26.1% (2020)	27.1% (2021)	27.4% (2022)	(2023)	20% (2023)	C
目標値に対する達成率		15.1%	基準値超過	基準値超過	基準値超過			
半田病院における入院全体について「ほぼ満足である」以上の評価をした患者の割合	88.9% (2018)	79.6% (2020)	79.0% (2021)	80.9% (2022)	79.8% (2023)	(2024)	90% (2024)	C
目標値に対する達成率		基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿	基準値未滿			

KPIに対する達成状況評価 ※当該年度の達成状況、数値の変化要因等	メタボリックシンドローム該当者の割合 特定保健指導利用率は昨年度に比べ、5.6%増加しているもののメタボリックシンドローム該当率は増加に至った。年代別、性別で見ると、特定健診の対象となる40歳代前半ですでに愛知県平均より割合が高いため若年層に向けたメタボ対策を実施していく。
	半田病院における入院全体について「ほぼ満足である」以上の評価をした患者の割合
	本指標の実績が好転しない要因としては、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う面会制限の影響等が考えられる。新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い社会活動が正常化する中、医療の現場では感染症が再拡大する場面も生じており、面会制限等の緩和は慎重かつ段階的に進めている。コロナ以降、成果指標は横ばいとなっているが、コロナ以前の面会水準となるには更なる時間を要する。 ※無回答を除く割合 (R2) 85.0%、(R3) 84.0%、(R4) 85.2%、(R5) 84.8%

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅳ】健康づくりの推進と医療体制の充実

①健康づくりの推進

○主要な事業、取組

A. 健康づくり推進事業

(健康課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
健康寿命の延伸および自殺者の減少のため、年齢を問わず市民一人ひとりの身体とこころの健康づくりを推進する。そのため、健康講座、健康相談および人材育成等を行う。					
○事業の自己評価、成果等					
<ul style="list-style-type: none"> ・年代や性別に合わせた講座等を実施し、市民へ健康づくりに関する知識の普及・啓発ができた。 ・子育て世代のエクササイズ教室では、育児や家事に忙しく運動の機会が少ない子育て世代を対象に運動を始めるきっかけづくりを提供することができた。 ・学校教育課と連携し、ゲートキーパー養成講座を市内小中学校の教職員を対象に講座を実施した。 					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	1,199 千円	1,395 千円	1,960 千円		

B. がん検診等推進事業

(健康課)

○事業の概要（目的、実施内容）					
健康の保持、がんの早期発見及び早期治療を目的に対象年齢の市民に対し市内医療機関において22種類のがん検診を実施するとともに、受診勧奨を実施し、受診率向上を図る。					
○事業の自己評価、成果等					
<ul style="list-style-type: none"> ・市民ニーズに合わせ、新たに胃内視鏡検査を導入した。 ・受診対象者に対し、ナッジ理論を用いた個別勧奨を行うことで、受診促進をすることができた。 					
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	61,376 千円	62,382 千円	70,330 千円		

○その他の事業、取組

C. 特定健康診査等事業

(健康課)

○事業費 2023年度(R5決算額)	96,624 千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	-----------	---------	-----

D. 感染症予防事業

(健康課)

○事業費 2023年度(R5決算額)	3,542 千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	----------	---------	-----

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる

【施策Ⅳ】健康づくりの推進と医療体制の充実

E. 社会体育振興事業

(スポーツ課)

(事業の概要等) はんだシティマラソン大会では、昨年度実施したリレー形式とソロ部門を拡充した内容で開催した。 参加者の駐車場として使用していた半田市健康管理センター駐車場が利用不可となったため、参加者の人数制限を設け実施することとなったが、令和6年度ではシャトルバスなどを活用し、より多くの方が参加できる大会内容として進めている。			
○事業費 2023年度(R5決算額)	19,533 千円	○デジ田交付金	対象外

F. 半田運動公園管理運営事業

(スポーツ課)

(事業の概要等) 施設に愛称を付与するネーミングライツを実施した結果、令和5年12月から「半田ぴよログスポーツパーク」という新たな愛称となった。令和6年度以降はネーミングライツパートナーと協議を実施しながら、スポーツ振興や施設全体の魅力向上につながるソフト及びハード事業を進めている。			
○事業費 2023年度(R5決算額)	76,891 千円	○デジ田交付金	対象外

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる
【施策Ⅳ】健康づくりの推進と医療体制の充実

②医療体制の充実

○主要な事業、取組

A. 病院経営事業（半田病院）

（半田病院管理課）

○事業の概要（目的、実施内容）

市民の福祉、健康保持に必要な安全で安心かつ質の高い医療を提供するため、救急・がんなどの高度医療や、地域の医療機関等との役割分担、連携の中心的な役割を果たすとともに、効率的で健全な経営を継続する。

○事業の自己評価、成果等

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う社会活動の正常化により、回復基調にある医療需要に対し、第3次救急の病院機能を維持し、地域の基幹病院としての役割を全うした。医療体制の正常化も進む中で、地域の医療機関との連携を図ることで紹介率は85.7%（前年度比+4.2%）、逆紹介率は110.3%（前年度比+4.7%）となり、新規入院患者の増や平均在院日数の短縮につながった。収支状況については、新病院建設の影響により、経常収支及び純利益は赤字に転じたが、医療収支は昨年度を上回る黒字（14年間連続）となり、当初予定した赤字を大幅に縮減した。

○事業費	収益的支出	2022年度 (R4決算額) 14,357,501千円	2023年度 (R5決算額) 15,651,948千円	2024年度 (R6予算額) 18,642,441千円	○デジ田 交付金	対象外
	資本的支出	2022年度 (R4決算額) 3,053,744千円	2023年度 (R5決算額) 10,030,613千円	2024年度 (R6予算額) 20,491,942千円		

B. 新病院建設事業（半田病院）

（半田病院管理課）

○事業の概要（目的、実施内容）

現病院の老朽化・狭あい化、耐震面での課題を解消し、最新医療機器の導入とあわせて急性期医療をさらに高度化するとともに、新たな感染症にも対応でき、大規模な自然災害時にも継続可能な新病院を建設する。令和7年春の開院に向けて、新病院の建設設計、医療コンサルタント、新病院建設工事、工事監理等を実施する。

○事業の自己評価、成果等

新病院建設工事については、本体工事に着手し、概ね順調に進捗している。また、建設工事に加え、医療情報システムの開発に着手するとともに、新病院における運用計画の作成や医療機器の購入など、円滑な開院に向けた事業を進めた。

○事業費	2022年度 (R4決算額) 2,391,755千円	2023年度 (R5決算額) 9,477,993千円	2024年度 (R6予算額) 14,662,226千円	○デジ田 交付金	対象外
------	----------------------------------	----------------------------------	-----------------------------------	-------------	-----

○その他の事業、取組

C. 救急医療対策推進事業

（健康課）

○事業費 2023年度(R5決算額)	14,380千円	○デジ田交付金	対象外
-----------------------	----------	---------	-----

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる
【施策V】多文化共生の推進

◎ 重要業績評価指標（KPI）の達成度と評価

指標	基準値	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	目標値 (2024)	達成度
多文化共生に関する啓発の実施回数（回／年）	1回 (2018)	3回 (2020)	3回 (2021)	5回 (2022)	3回 (2023)		5回	B
目標値に対する達成率		50.0%	50.0%	100.0%	50.0%			
多文化共生という言葉を知ったことがある市民の割合	58.4% (2019)	39.9% (2021調査)	45.8% (2022調査)	47.6% (2023調査)	46.3% (2024調査)		80% (2025)	C
目標値に対する達成率		基準値未満	基準値未満	基準値未満	基準値未満			

KPIに対する達成状況評価 ※当該年度の達成状況、数値の変化要因等	多文化共生に関する啓発の実施回数（回／年） 事業内容の見直し等を行い、年2回実施していた事業を年1回開催とするなどして実施回数は減ったが、外国籍市民向けの多文化災害ボランティア養成講座、市職員向けのやさしい日本語講座などの既存事業に加え、市民向けの多文化共生理解促進講座を新たに実施するなどして、多文化共生に関する啓発につなげる事業等を展開することが出来ている。
	多文化共生という言葉を知ったことがある市民の割合 本指標の実績は昨年度と比較すると微減となっているが、市が単独実施する事業に加え、地域が市と協働で多文化共生の視点を取り入れた防災事業やイベントを開催するなど、地域での多文化共生の推進は広がっている。

令和6年度半田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価表（施策別）

基本目標 4 安全で快適な環境のもとで安心して暮らせる「まち」をつくる
【施策V】多文化共生の推進

①多文化社会を支えるひとづくり・まちづくり / ②共生のための支援

○主要な事業、取組

A. 多文化共生推進事業

(市民協働課)

○事業の概要（目的、実施内容）

「多文化共生プラン」に基づき、「多文化を支えるひとづくり」、「共生のための支援」、「協働によるまちづくり」を基本目標に、様々な施策により外国籍市民が地域住民と共生する多文化共生社会の実現を目指す。
 外国籍市民のための行政窓口での支援、日常生活のための日本語教室開催や相談窓口による支援、ボランティア養成講座や地域交流事業等、各種講座・イベント等を実施した。

○事業の自己評価、成果等

相談業務は、年々増加傾向にあるなど外国籍市民への支援として機能しており、SNSでの情報発信についても、外国籍市民の利用が多いInstagramの運営を始めるなど、外国籍市民へ情報を届ける体制の強化を図った。また、多様な事業展開により、市民の多文化共生の理解促進に努めた。

○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象 (地方創生推進)
	6,760 千円	6,665 千円	7,856 千円		

B. 日本語初期指導事業

(学校教育課)

○事業の概要（目的、実施内容）

日本語を話すことができない児童生徒に対して、初期の日本語指導や学校生活指導を一定期間集中的に行うことにより、学校生活への早期適応支援を行う。

○事業の自己評価、成果等

対象となる児童生徒の日本語能力に応じて、「話す・聞く・読む・書く」の4技能をバランスよく指導したことにより、学校生活を送るうえで必要となる基礎的な日本語能力を身に付けさせることができた。
 また、指導実施校までの保護者送迎が困難である児童生徒に対しては、一部タクシーでの送迎を実施した。

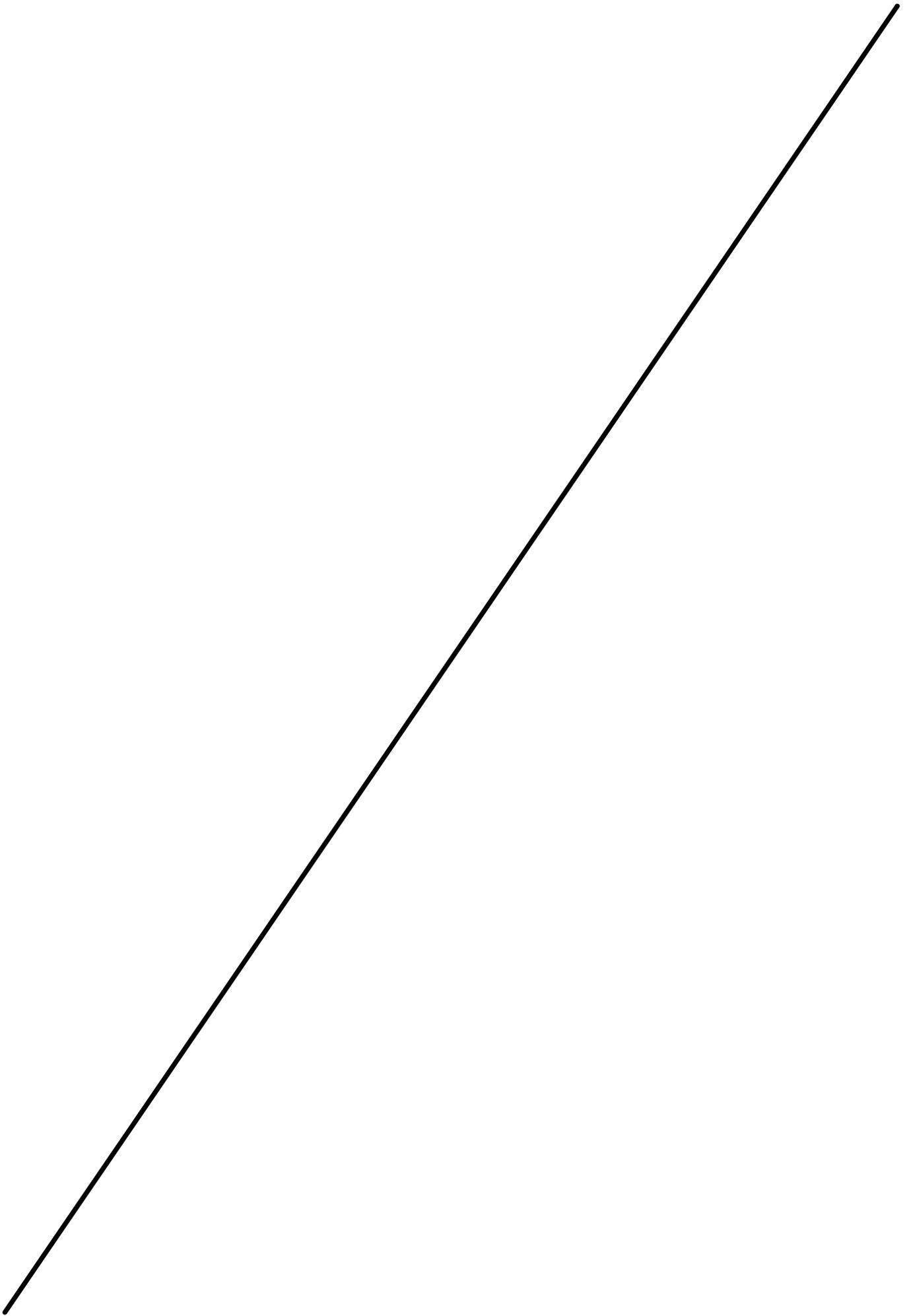
○事業費	2022年度 (R4決算額)	2023年度 (R5決算額)	2024年度 (R6予算額)	○デジ田 交付金	対象外
	8,912 千円	9,191 千円	11,318 千円		

○その他の事業、取組

C. 外国語指導助手配置事業

(学校教育課)

○事業費 2023年度 (R5決算額)	29,106千円	○デジ田交付金	対象外
------------------------	----------	---------	-----



5. デジタル田園都市国家構想交付金 対象事業の効果検証

生きがいと社会貢献を育む新地域コミュニティの構築事業 (地方創生推進タイプ)

(総合戦略 基本目標3・4)

事業概要	<p>地域のまちづくりを支える中心的な組織として小学校区コミュニティの構築に向けた取組を行う。また、自治区や市民活動団体といった既存の地域活動団体の活性化のための支援を行うとともに、外国籍市民を含めた地域コミュニティへの参加市民を増やすための多文化共生等の取組を行うことにより、働きながら無理なく地域活動に参加し活動を継続できる環境づくりを目指す。</p>
交付対象事業	<p>1. 小学校区コミュニティ構築事業</p> <p>(1) 小学校区コミュニティ活動支援事業【市民協働課】（基本目標3-施策Ⅲ-①） 小学校区単位での活動を目的とした協議組織の立ち上げ支援を通して、小学校区コミュニティ組織の構築を目指す。成岩小学校区において「地域の未来ミーティング」を開催し、小学校区単位のコミュニティの必要性について地域の中で意識醸成・共有することができた。</p> <p>2. 地域活動活性化事業</p> <p>小学校区コミュニティの構築・活性化は市民活動団体の事業活性化と密接に関連している。そのため、小学校区コミュニティを構築するための取り組みと並行して、市民活動団体等の事業活性化を図った。また、地域コミュニティの形成や活性化に向けて、環境整備への助成等を行った。</p> <p>(1) 市民活動助成事業【市民協働課】（基本目標3-施策Ⅲ-①） 市民活動団体等の行う公益的な事業に対して市民活動助成金を交付した。地域課題解決のための持続可能な事業に対し助成することにより、きめ細かな市民ニーズに対応でき、住みよいまちづくりにつなげた。</p> <p>(2) 地域環境整備事業【市民協働課】（基本目標3-施策Ⅲ-①） コミュニティ環境整備助成事業【市民協働課】（基本目標3-施策Ⅲ-①） 地域団体が自主的かつ自立的に活動するために、備品の購入等に対する助成や、地域の公園等の公共施設をより快適に使うための整備資材を支給した。</p> <p>(3) 公園管理事業【都市計画課】（基本目標3-施策Ⅲ-①） 地域の公園は定期的に専門業者に樹木剪定、草刈りを委託しているが、さらに快適にかつ自由に利用してもらうために、希望する地域団体に対して公園管理を委託した。公園の美化と併せて、地域イベントの開催等、地域の活動拠点として利用できる公園の整備を目指した。</p> <p>3. 外国籍市民地域活動参加推進事業</p> <p>地域活動にかかわる外国籍市民を増やすとともに、言葉・文化の相互理解を図った。</p> <p>(1) 多文化共生推進事業【市民協働課】（基本目標4-施策Ⅴ-①、②） 様々な施策により外国籍市民が地域住民と共生する多文化共生社会の実現を目指した。外国籍市民のための行政窓口での支援、日常生活のための日本語教室開催や相談窓口による支援、ボランティア養成講座や地域交流事業等、各種講座・イベント等を実施した。また、多様な事業展開により、市民の多文化共生の理解促進に努めた。</p>

<p>交付対象事業</p>	<p>4. 市民活動スキルアップ事業</p> <p>(1) はんだまちづくりひろば運営事業【市民協働課】（基本目標3-施策Ⅲ-①） 協働のまちづくりを推進するため、市民活動・ボランティア活動を行う団体を支援した。相談事業、各種講座の開催、活動・交流の場の提供、情報収集・提供等、団体PRや資金調達支援を行った。</p> <p>(2) 生涯学習推進事業【生涯学習課】（基本目標4-施策Ⅲ-①） 市民の求める生涯学習機会及びその情報の提供を目的として、一人ひとりが自らを高めるための講座の開設や、学習の成果を地域で積極的に生かし「自分づくり」「ひとづくり」「まちづくり」につながるような学習の支援を進めた。地域活動で活かせるスキルの向上のための講座を日本福祉大学と共催により実施した。</p>
<p>事業費 (交付額)</p>	<p>19,272,695円 (9,636,346円)</p> <p>※交付率1/2、端数処理のため数円の差異あり</p>

交付金対象事業の各種指標（KPI）

No.	指標	2020年度 (R2) 当初値	2021年度 (R3) 実績値 (目標値)	2022年度 (R4) 実績値(目標値)	2023年度 (R5) 実績値(目標値)
①	小学校区コミュニティの設立数	累計 4団体	累計 4団体 (累計 6団体)	累計 7団体 (累計 8団体)	累計 9団体 (累計 13団体)
②	若い世代（39歳以下）の 転入者数－転出者数	-	▲468人 (500人)	▲127人 (1,500人)	83人 (3,000人)
③	コミュニティ・スクールの活動回数 (1校あたりの平均回数/年)	-	47回 (40回)	56回 (45回)	50回 (50回)
④	外国籍市民向けフェイスブック登録者数	225人	312人 (300人)	1,019人 (400人)	1,341人 (500人)

有識者による効果検証

<p>外部組織による本事業の評価</p>	<p>①</p>
----------------------	----------

- 選択肢
(2択)
- ① 地方版総合戦略のKPI達成に有効であった
(評価委員：7名/7名中)
 - ② 地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えない
(評価委員：0名/7名中)

伝統のまち「はんだ」の魅力向上事業 (地方創生推進タイプ)

(総合戦略 基本目標1～4)

事業概要	<p>観光・産業分野のほか、文化・芸術分野からも本市の新たな魅力を築き、新しい関係人口の創出を目指す。本市の醸造業等に着目した食の観光推進や、中心市街地及び商業施設の活性化のための取組を実施する。さらに、市民がまちなかや身近な場所で文化や芸術に触れられる取組を併せて行うことにより、新たな賑わいの創出や地域の活性化を図る。</p>
交付対象事業	<p>1. 観光推進事業</p> <p>(1) 観光振興事業【観光課】(基本目標2-施策I-①、②、③) 名鉄とタイアップしたいいかも半田キャンペーン推進事業や寿司にスポットをあてた食の観光推進事業、インフルエンサーを活用した観光情報拡散促進事業を実施した。半田市の観光資源を活用したプロモーションやイベント等を実施することで魅力発信と誘客を図るとともに、通年のいいかも半田キャンペーン等により回遊の促進や日常的な誘客を図った。</p> <p>(2) 文化芸術普及推進事業【生涯学習課】(基本目標4-施策III-①) 市民が文化芸術に対する興味を持つきっかけをつくったり、親しみをより深めてもらったりすることを目的に、まちなかや身近な場所で文化や芸術に触れ体験や鑑賞ができる企画として、「まちなかでアート」等を実施した。</p> <p>2. 中心市街地活性化支援事業</p> <p>(1) 中心市街地活性化支援事業【産業課】(基本目標1-施策I-③) 中心市街地を社会的、経済的及び文化的活動の拠点として魅力ある場所にするため、中心市街地商業活性化にぎわい事業補助金及び中心市街地まちづくり支援事業補助金を交付した。中心市街地において商業者等によるイベントの企画実施、はんだ山車まつりを意識した巨大提灯をモニュメント的に設置したことで、多くの人が集まるきっかけとなり、商店街のPRの向上と、にぎわいの創出につながった。</p> <p>3. 商業施設助成事業</p> <p>(1) 商業施設助成事業【産業課】(基本目標1-施策I-③) 持続可能な商業振興を目的として、計画的に地域に必要とされる業種を配置することで、魅力ある個店づくりを支援した。中心市街地(出店促進エリア)や商店街エリア等の事業者に対して施設整備費、改装費を補助したことにより、魅力ある個店の展開につなげた。</p> <p>4. シティプロモーション推進事業</p> <p>(1) シティプロモーション推進事業【企画課】 (基本目標1-施策II-③、基本目標2-施策I-③、基本目標3-施策III-②) 定住人口の増加を目指し、本市の都市イメージの向上や市民の愛着の醸成に資する取組を行った。西三河地域を対象にした情報誌を活用した広報、若者世代(高校生・大学生)と連携した半田の魅力発信、地域資源をささえる「人」や「思い」を紹介する魅力発見ツアーを通して、市のPRと市民の愛着醸成につながる取組を実施した。</p>
事業費 (交付額)	<p>26,354,743円(13,177,371円)</p> <p>※交付率1/2</p>

交付金対象事業の各種指標（KPI）

No.	指標	2021年度 (R3) 当初値	2022年度 (R4) 実績値 (目標値)	2023年度 (R5) 実績値 (目標値)	2024年度 (R6) (目標値)
①	中心市街地の歩行者数	5,000人	6,917人 (5,500人)	6,790人 (6,000人)	- (6,500人)
②	デジタルクーポン利用者数 (半田めぐりんMAPデジタルのクーポン利用者数)	0人	1,464人 (8,610人)	1,962人 (10,849人)	- (11,391人)
③	鉄道キャンペーン参加者数 (名古屋鉄道㈱とのいいかも！半田キャンペーンにおけるチケット販売数)	30人	1,575人 (230人)	1,608人 (430人)	- (630人)

有識者による効果検証

外部組織による本事業の評価	①
---------------	---

- 選択肢
(2択)
- ①地方版総合戦略のKPI達成に有効であった
(評価委員：6名/7名中)
 - ②地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えない
(評価委員：1名/7名中)

農業起点の地域プラットフォーム創出による交流活性化事業 (地方創生推進タイプ)

(総合戦略 基本目標1)

事業概要	<p>農家の経営基盤強化と地域全体の農業価値を高める事業を展開する。市民や消費者との交流を創出するために、「地域マルシェ」を開催し、知多半島の中核都市として当マルシェを知多半島の「広域連携マルシェ」へと昇華させる。また、農業を起点として地域プラットフォームを構築し、農家のモチベーションを高め、農業の持続性や農業を重要な地域資源として感じられる場と機会を創出する。これにより、本市の農業の価値を高め、より魅力的な地域を目指す。</p>
交付対象事業	<p>1. 農業マルシェ等支援事業</p> <p>(1) 民間人材活用事業（6次産業化）【産業課】（基本目標1-施策Ⅱ-①②）</p> <p>農業を起点とした地域プラットフォームの創出や農家の個力の向上、情報発信強化を目指し、農家の価値を高めるための支援を行う。その一つとして、農家とともに農業マルシェを開催し、農家主体の地域プラットフォームが構築できるよう進めた。農家同士や農家と他業種とのつながりの構築、農業の持続性や地域資源として感じられる場と機会として、農家交流会「〇〇と語り合う会」や農業マルシェの開催し、農業の価値を高めることができた。</p>
事業費 (交付額)	<p>3,333,000円 (1,665,180円)</p> <p>※交付率1/2、交付限度額の都合上、一部事業費は交付対象外</p>

交付金対象事業の各種指標 (KPI)

No.	指標	2022年度 (R4) 当初値	2023年度 (R5) 実績値 (目標値)	2024年度 (R6) (目標値)	2025年度 (R7) (目標値)
①	新規就農者数 (※各年度の就農者数)	1人	1人 (2人)	- (2人)	- (4人)
②	農業マルシェ開催数	0回	4回 (2回)	- (6回)	- (12回)
③	農業マルシェの農業者参加者数 (年間累計)	0軒	63軒 (40軒)	- (65軒)	- (110軒)
④	農業マルシェの来場者数 (年間累計)	0人	3,300人 (1,000人)	- (2,750人)	- (5,000人)

有識者による効果検証

外部組織による本事業の評価	①
---------------	---

選択肢
(2択)

- ①地方版総合戦略のKPI達成に有効であった
(評価委員：7名/7名中)
- ②地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えない
(評価委員：0名/7名中)

